

継続的な改善活動のために！

2012

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書(抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではあります。一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来47年の歴史を着実に刻み、'12年4月より工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行しております。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系、'05年度には電気系、'08年度には化学系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'12年度に日本高等教育評価機構が実施した大学機関別認証評価の判定結果として、「金沢工業大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている。」と認定されました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'11年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げます。次第であります。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動していません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	在学中の目的・目標意識	11
<4>	大学に対する満足度	17
<5>	授業・学習支援の評価	33
<6>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	59
<7>	福利厚生の評価	67
<8>	KIT-IDEALSに関して	79
<9>	卒業時の能力	89
<10>	卒業・修了生アンケートの分析結果	95
<11>	新入生アンケートの分析結果	103
<12>	教職員アンケートの分析結果	119
<13>	全体のまとめ	131
<14>	フリーアンサー集	151
<15>	調査票見本	275

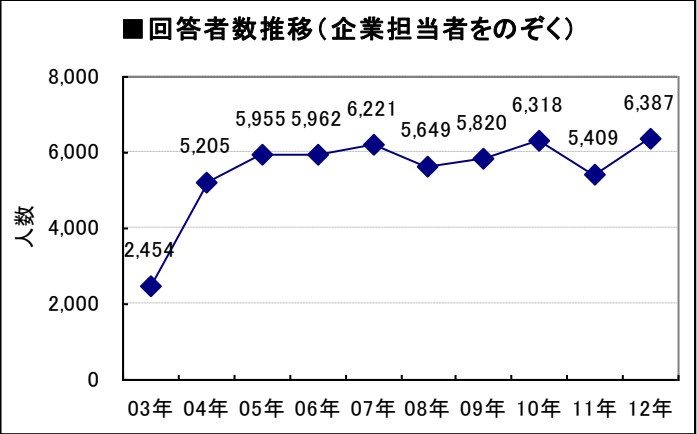
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が10回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2012年2月～4月に実施。 ・ 2005年の調査より、在學生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在學生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,387サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	学科体制・備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	新新学科(4学部、14学科)
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	新学科(4学部、14学科)
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	旧学科(3学部、15学科)
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	—
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	—
企業担当者	卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	660	実施せず	実施せず	686	実施せず	—
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	

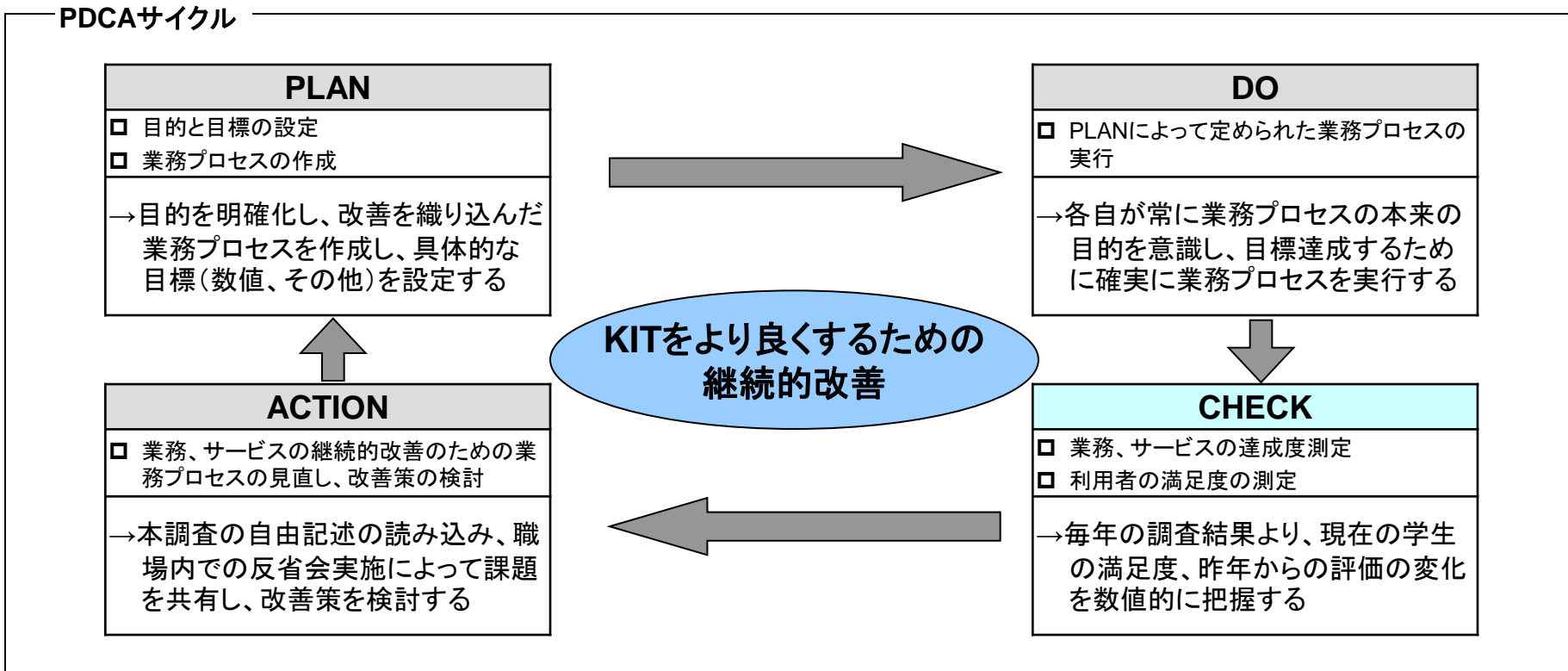
■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none">・ 無回答はすべて集計から除外した。・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none">・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。・ 今回の調査では、選択肢を「思う～どちらかといえば思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none">・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか?」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1>在学生・卒業生の基本属性

■所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

■在学生・卒業生の所属学部

(単位:人)

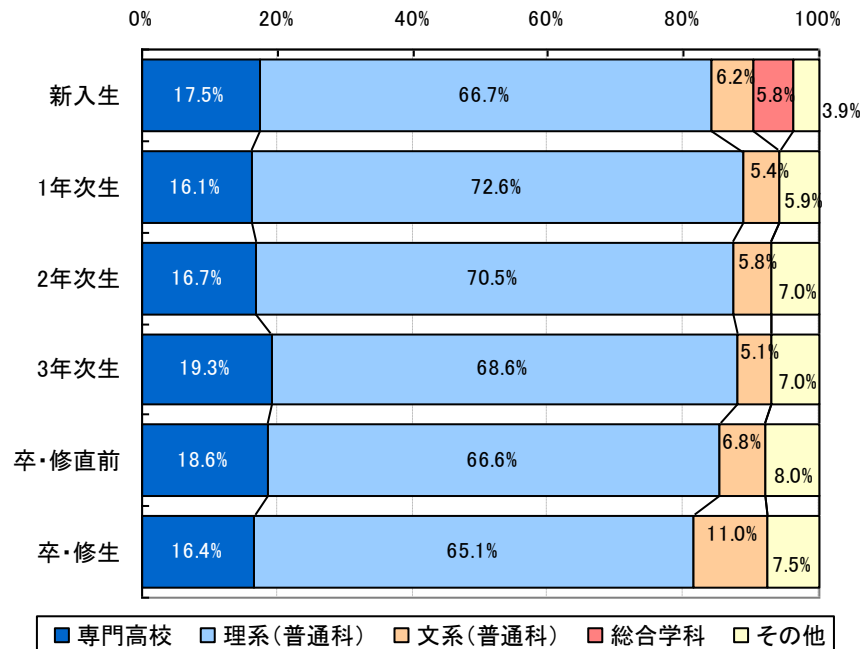
属性	工学部	情報フロンティア学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	無回答	全体
新入生	926	293	323	193	10	1,745

属性	工学部	情報学部	環境・建築学部	バイオ・化学部	大学院	無回答	全体
1年次生	514	414	212	158	—	1	1,299
2年次生	645	325	167	179	—	5	1,321
3年次生	340	227	102	85	—	2	756
卒・修直前	352	202	100	82	133	4	873

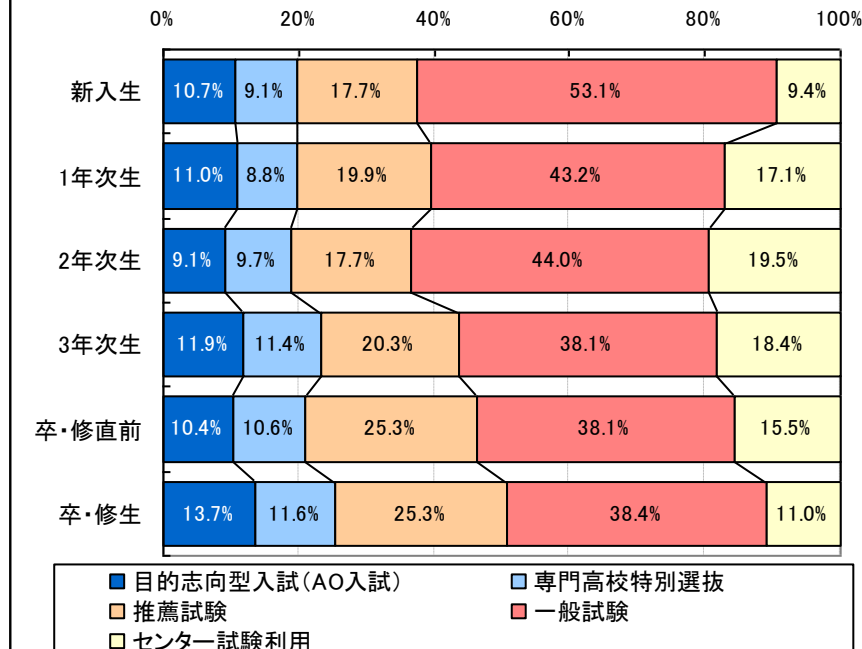
属性	工学部	環境・建築学部	情報フロンティア学部	大学院	無回答	全体
卒・修生	63	35	28	19	1	146

■出身高校の課程

※総合学科は「新入生」のみに聞いている。



■入学に至った入試



■在学生の出身地域

■在学生の出身地域

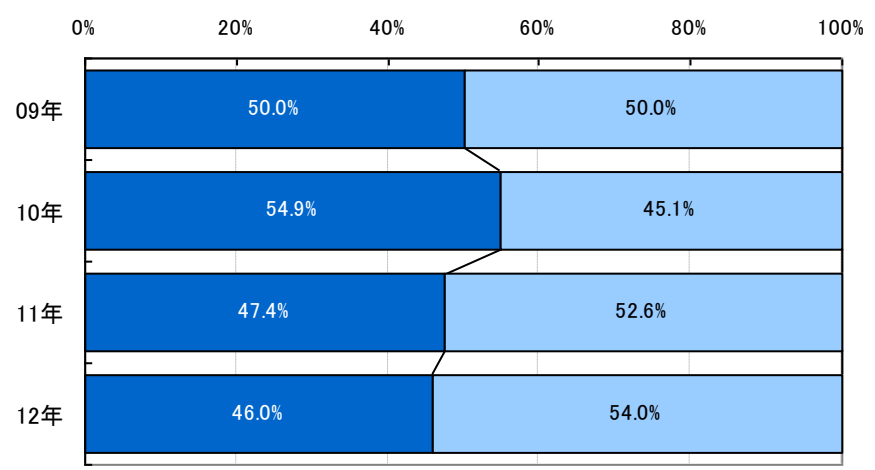
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	59	50	189	612	162	129	60	23	1,284
	4.6%	3.9%	14.7%	47.7%	12.6%	10.0%	4.7%	1.8%	100.0%
2年次生	51	44	198	595	179	145	67	36	1,315
	3.9%	3.3%	15.1%	45.2%	13.6%	11.0%	5.1%	2.7%	100.0%
3年次生	24	33	121	379	85	69	32	12	755
	3.2%	4.4%	16.0%	50.2%	11.3%	9.1%	4.2%	1.6%	100.0%
卒・修直前	30	33	119	439	115	78	35	23	872
	3.4%	3.8%	13.6%	50.3%	13.2%	8.9%	4.0%	2.6%	100.0%
全体	164	160	627	2,025	541	421	194	94	4,226
	3.9%	3.8%	14.8%	47.9%	12.8%	10.0%	4.6%	2.2%	100.0%

<3-1>在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

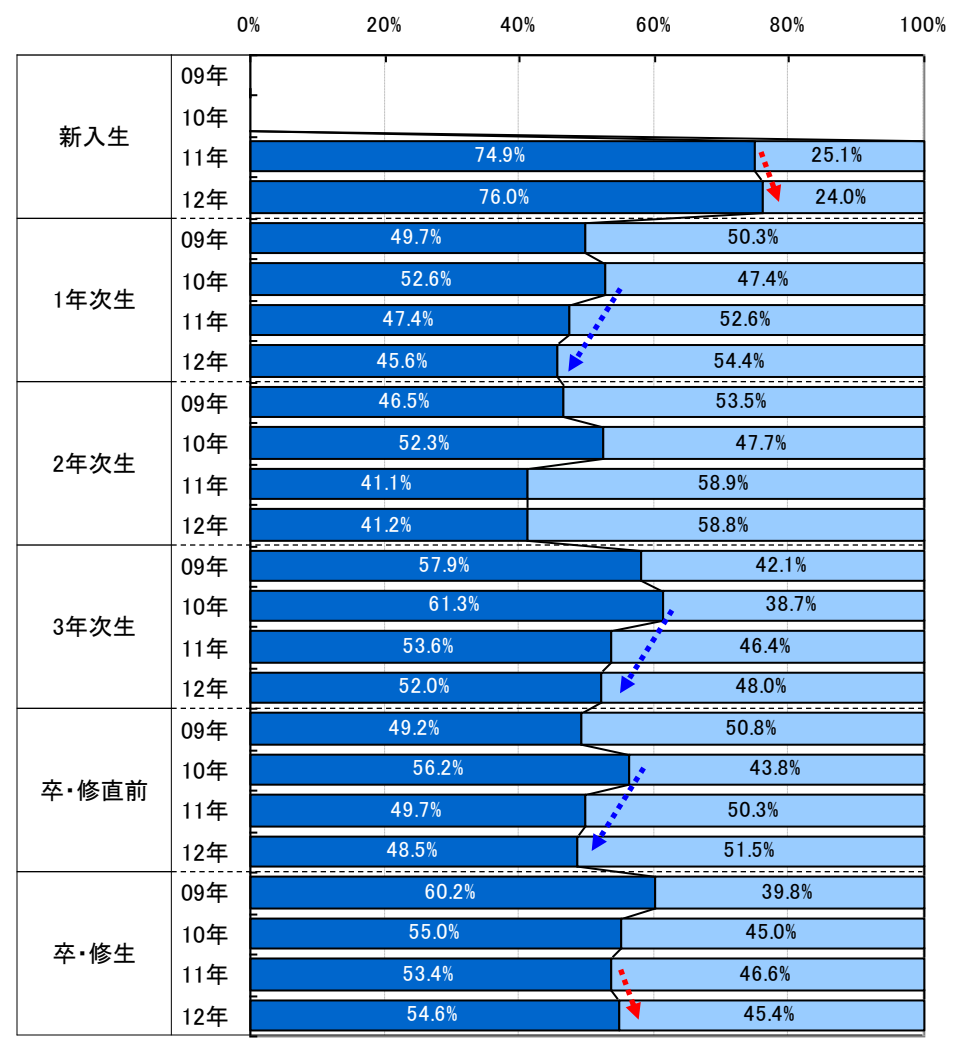
- 在学生に対して「現在の大学生活での目的・目標の有無」を聞いたところ、46.0%が「目標あり」と答えており、「目標なし」の方が8ポイント多かった。
- 経年変化を見ると、「目標あり」は前回より1.4ポイント減少しており、2010年から減少が続いていた。
- 学年別・年度別比較のグラフで2012年の結果を属性別に見ると、「新入生」は76.0%が目標を持っていたが、その他の学年は低かった。特に「2年次生」では「目標あり」が41.2%と非常に低く、入学から1年経過した「1年次生」でも45.6%と、入学後に一気に目的・目標を見失っている様子がうかがえた。
- 学年別の経年変化を見ると、「新入生」と「卒・修生」は「目標あり」という回答の割合が増加していたが、「1年次生」「3年次生」「卒・修直前」では2010年から継続的に減少が続いていた。

■現在の大学生活での目的・目標意識(在学生)



※この質問は「新入生」「在学生」「卒業生」に聞いているが、上記グラフは「在学生(大学院を含む)」のみを対象として比較している。

■現在の大学生活での目的・目標意識
学年別・年度別比較



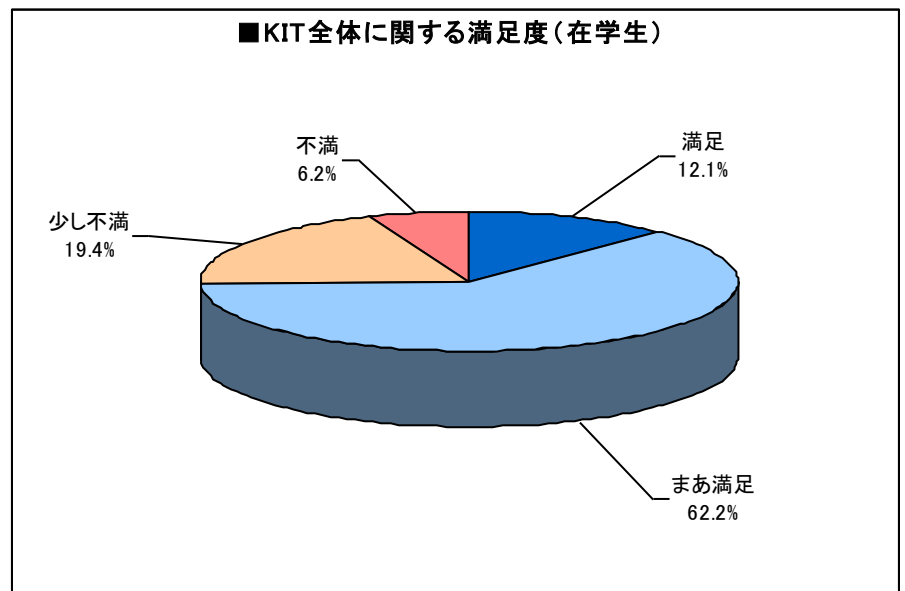
※上記グラフでは、「新入生」には今回から「大学に入ってこれやりたいという目的・目標を持っていますか?」と聞いている。

■ 目標あり □ 目標なし

<4-1> KITの総合満足度

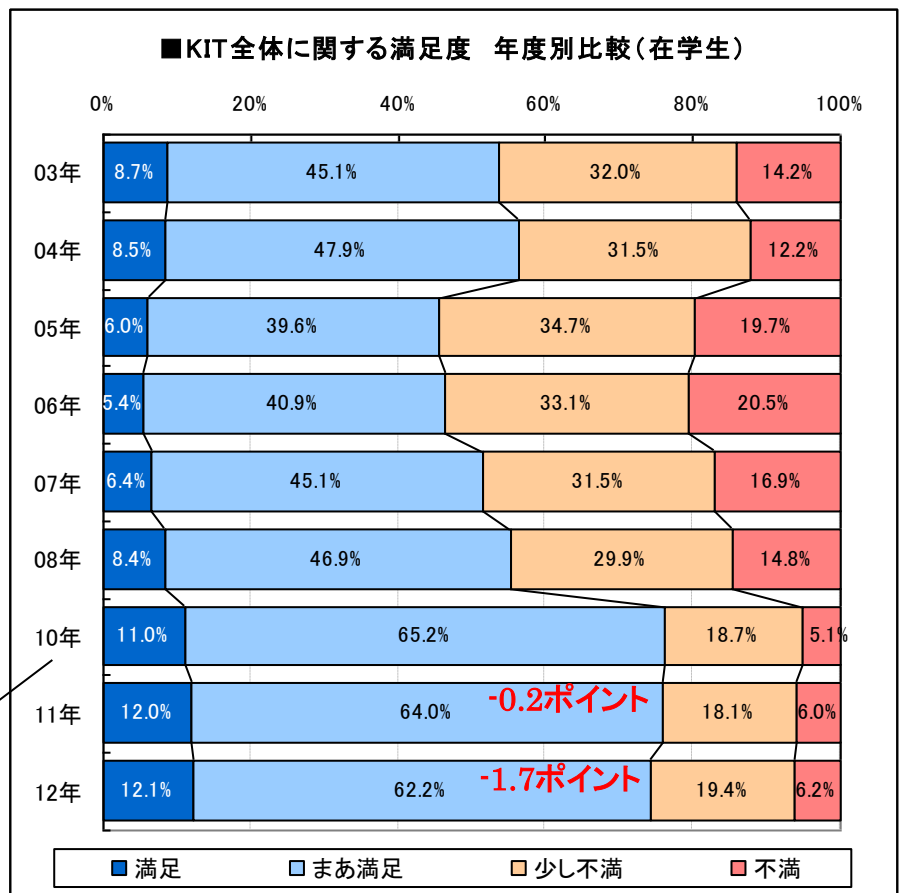
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に関しては、「満足」が12.1%、「まあ満足」が62.2%であり、合わせると74.3%は満足と答えていた。
- KITの総合満足度に関しては、03年から08年には「今のKITに満足していますか？」という質問に対して、「そう思う」～「そう思わない」の4段階で聞いており、現在とは聞き方が異なっている。また、09年にはこの質問は行わなかったが、参考のため年度別比較を行った。
- 「KITに満足している」という回答は、05年から08年にかけてわずかずつ増加していた。そして、2010年以降は質問方法が異なっているが満足しているという回答が一気に増加したが、2011年から2012年にかけてはわずかずつではあるが徐々に減少していた。



満足している(74.3%) > 不満を持っている(25.6%)

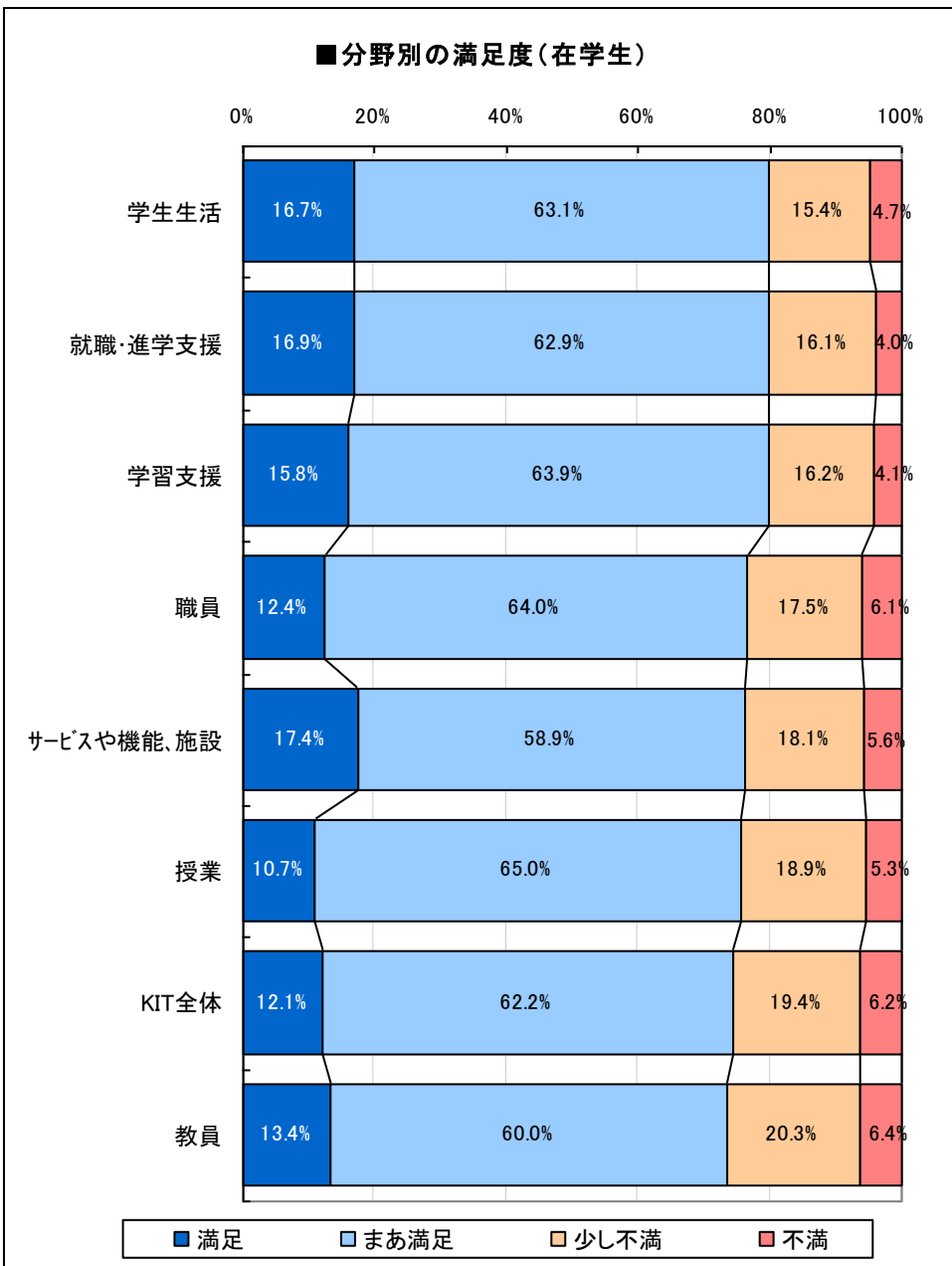
10年から聞き方が変わっている



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

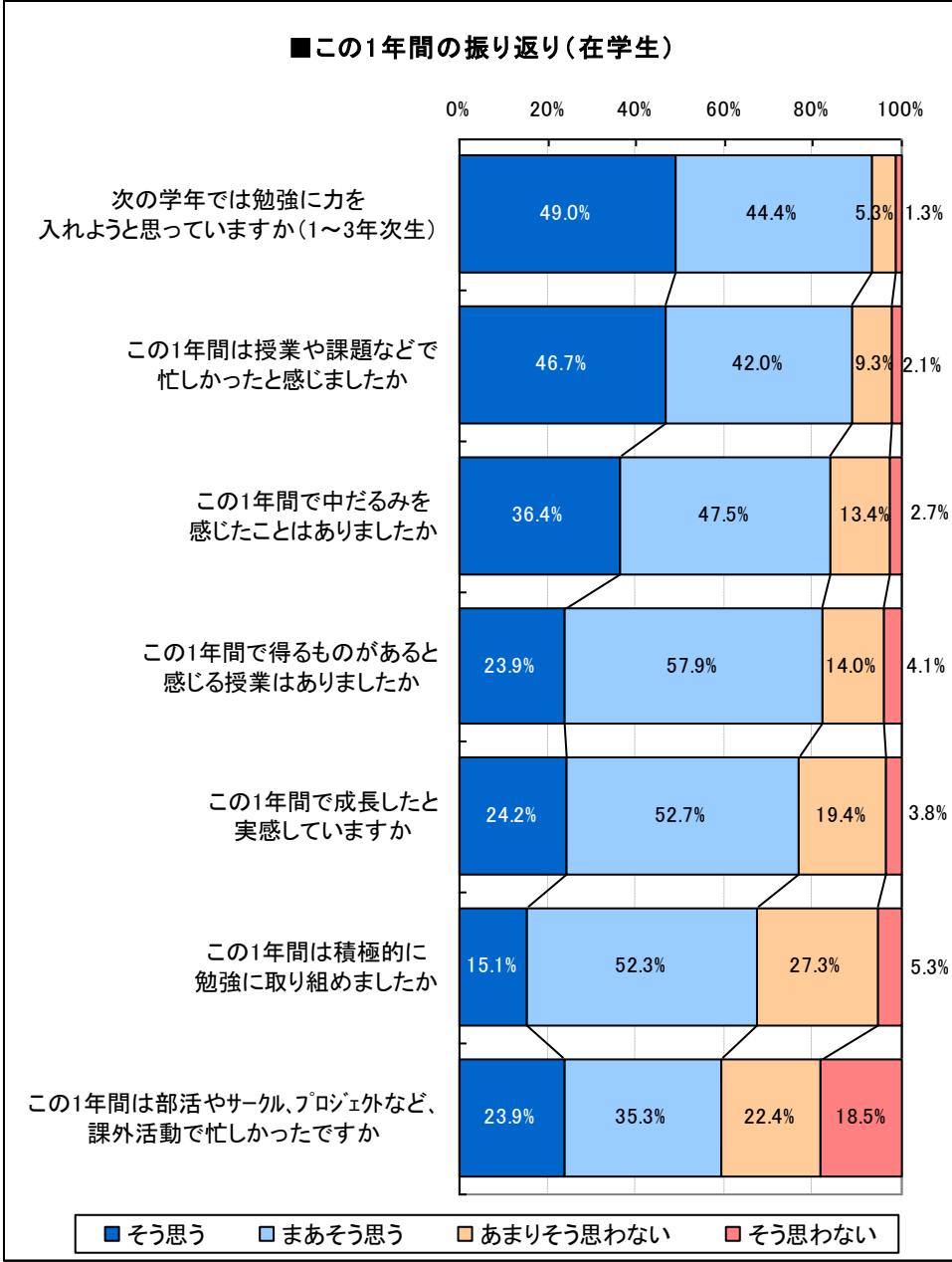
- 「KIT全体の満足度」も含めて、大学機能の各分野の満足度を聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 最も満足度が高かったのは「学生生活」と「就職・進学支援」であり、この2つの分野では79.8%が満足という答えであった。続く「学習支援」も79.7%が満足と答えており、この3つの分野の満足度はほぼ8割と、非常に高いことが分かった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」で、満足という回答は73.4%であり、「KIT全体」「授業」「サービスや機能、施設」と続いていた。ただし、「サービスや機能、施設」に関しては「満足」という回答が17.4%と多く、一部の学生は満足しているようであった。



<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

- 「この1年間の振り返り」に関して、最も肯定的な意見が多かったのは「次の学年では勉強に力を入れようと思っていますか」であり、49.0%が「そう思う」、44.4%が「まあそう思う」であり、合わせて93.4%が次の学年では勉強に積極的に取り組もうと考えていた。
- これに対し、「この1年間は積極的に勉強に取り組めましたか」では、肯定的な意見が67.4%と低めであった。
- 「この1年間は授業や課題などで忙しかったと感じましたか」では88.7%、「中だるみを感じたことはありませんでしたか」では83.9%が肯定的な意見であり、多くの学生が忙しい感じながらも中だるみを感じているようであった。
- 肯定的な意見が最も少なかったのは「この1年間は部活やサークル、プロジェクトなど、課外活動で忙しかったですか」であり、肯定的な意見は59.2%であったが、「そう思う」が23.9%、「そう思わない」が18.5%と、両極端の回答が多く、学生の中の温度差が大きいうようであった。

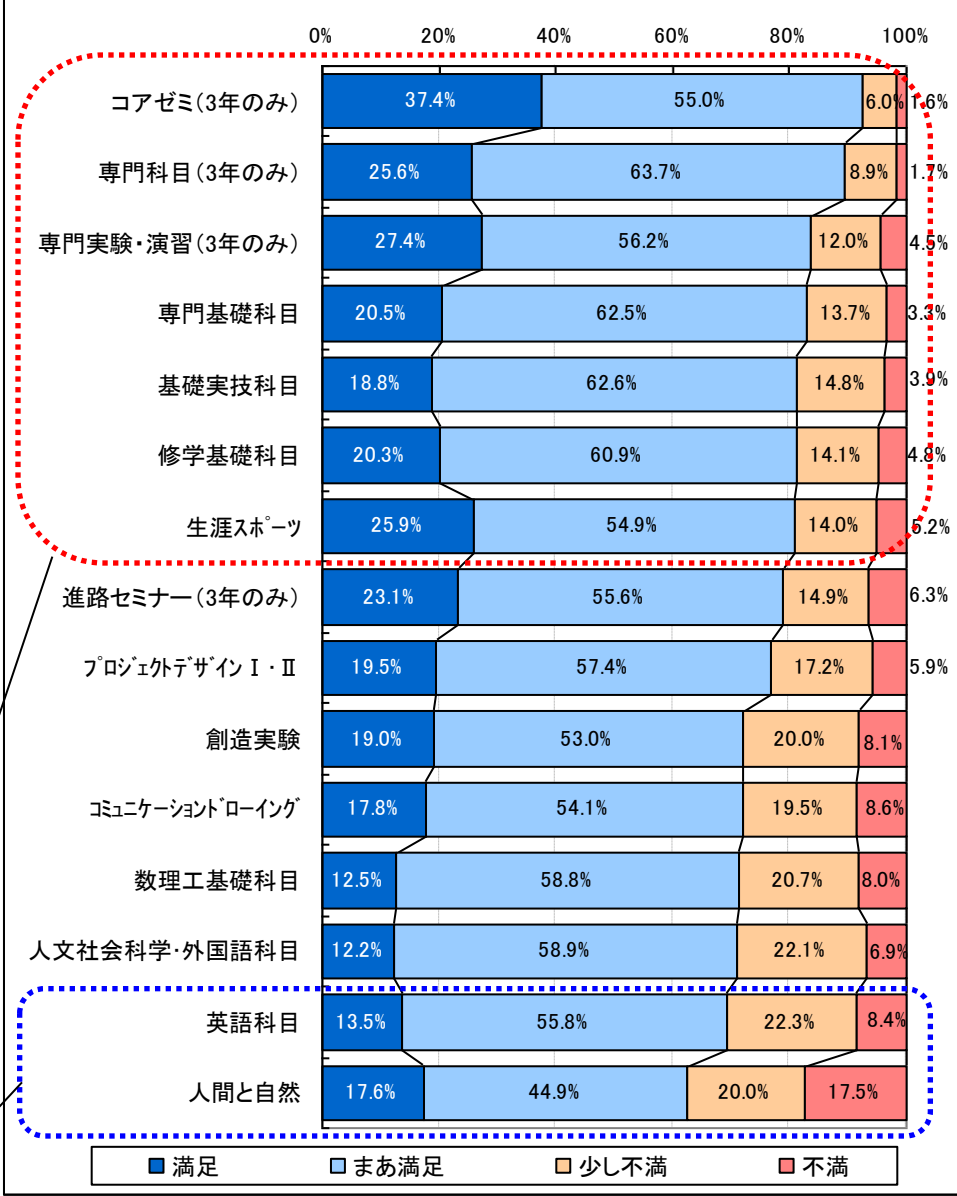


<5-1>授業の評価(1年次生～3年次生)

■授業の評価 1年次生～3年次生

- 授業の構成が、「1年次生～3年次生(新構成)」と「卒・修直前(旧構成)」で内容や呼称が異なるため、別々に集計を行っている。
- 「1年次生～3年次生」の評価を見ると、3年次生だけの授業であるが「コアゼミ」の満足度が最も高く、同じく3年次生だけの「専門科目」「専門実験・演習」と続いており、3年次生が授業に満足している様子がうかがえた。
- 上記に続いて「専門基礎科目」「基礎実技科目」「修学基礎科目」「生涯スポーツ」までの7科目で満足という回答が8割以上であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然」であり、「英語科目」も合わせた2科目では、満足という回答が7割に満たなかった。
- 満足度の低かったものを見たところ、専門性が感じられない科目に不満を持っているように思われた。

■授業の満足度(1年次生～3年次生)



満足している層が8割以上

満足している層が7割未満

■ 満足 ■ まあ満足 ■ 少し不満 ■ 不満

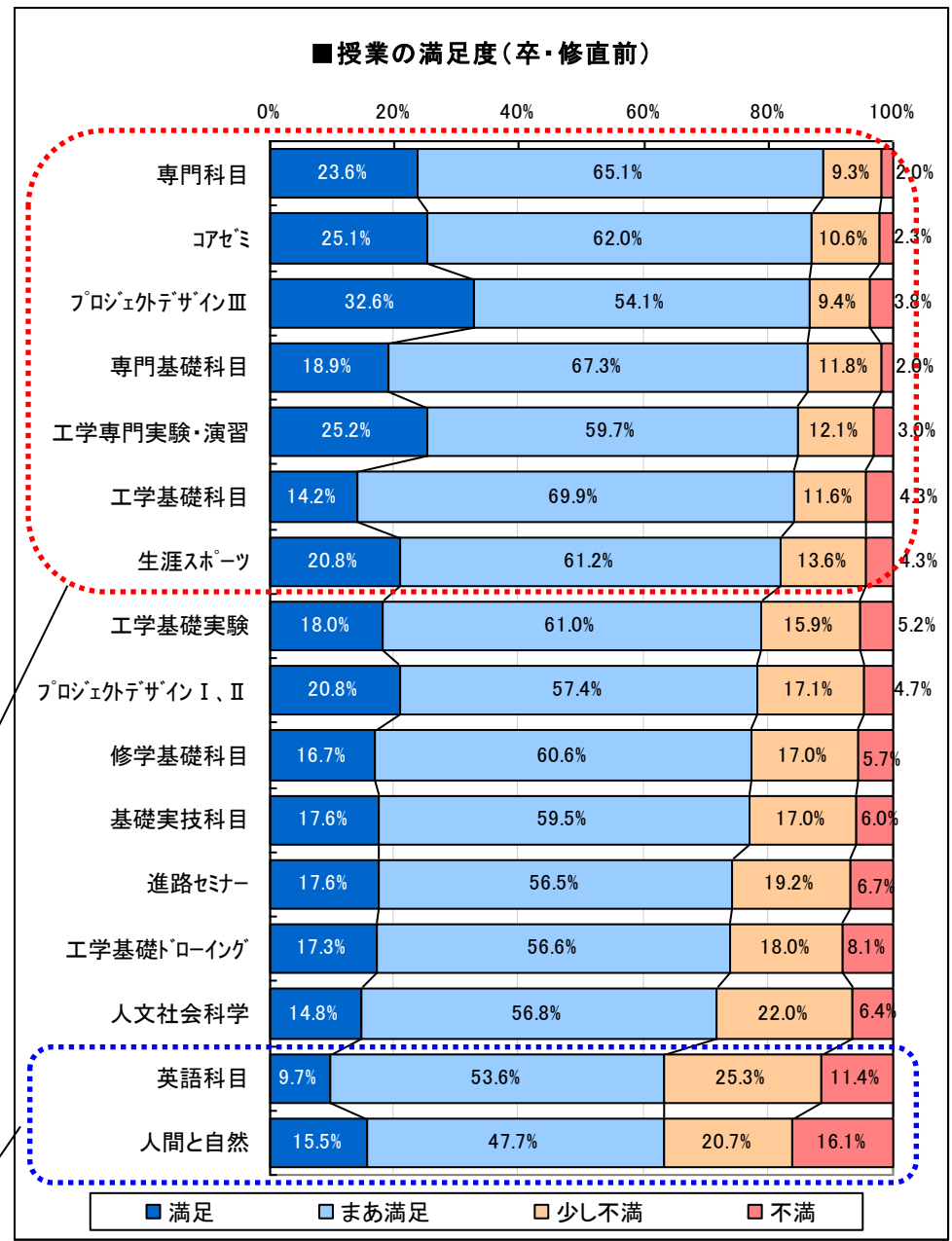
<5-2>授業の評価(卒・修直前)

■授業の評価 卒・修直前

- 「卒・修直前」の授業の満足度は右のグラフのようになった。「満足」と「まあ満足」を合わせた肯定的な回答で並べて比較をしている。
- 満足度が最も高かったのは「専門科目」であり、88.7%が満足と答えていた。次いで、「コアゼミ」、「プロジェクトデザインⅢ」と続いており、「生涯スポーツ」までの7科目では満足という回答が8割を超えていた。これらを見ると専門性の高い科目の満足度が高いように思われた。
- 「満足」だけの回答を見ると、「プロジェクトデザインⅢ」が32.6%と最も高く、この科目に強い満足度を感じている学生が多いようであった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然」であり、満足という回答は63.2%にとどまっていた。また、「英語科目」も満足という回答は63.3%であり、この2科目は満足という回答が7割に満たなかった。
- 特に「人間と自然」では「満足」と「不満」の両端が多く、学生の評価が分かれているようであった。

8割以上が満足

満足している層が7割未満



<5-3> 授業の仕組みの評価

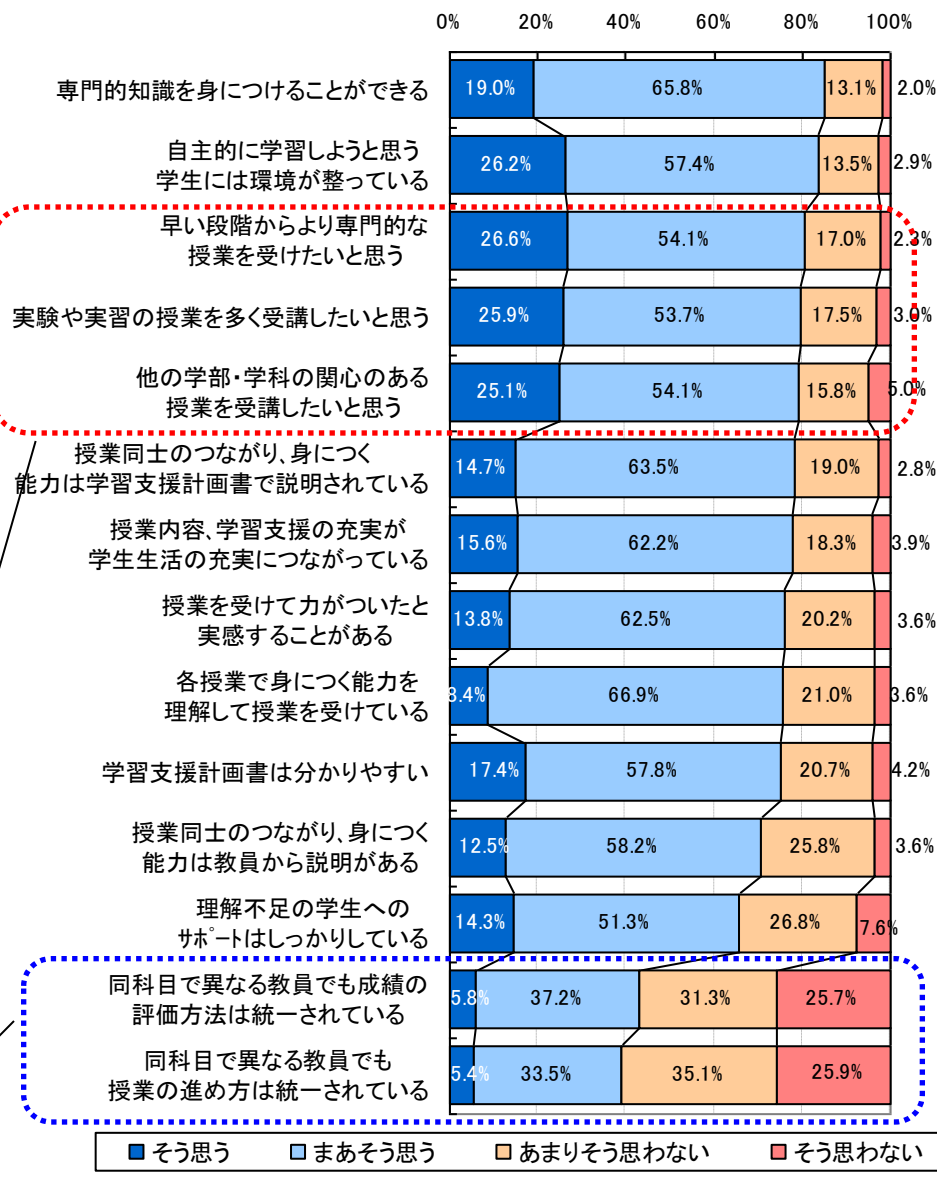
■ 授業の仕組みの評価

- 授業の仕組みに関する評価について最も肯定的な意見が多かったのは「専門的知識を身につけることができる」であり、「そう思う」が19.0%、「まあそう思う」が65.8%であった。
- 上記に次いで「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」で肯定的な意見が多かったが、「そう思う」という回答が26.2%と多く、高く評価している学生も少なくないようであった。
- 「早い段階からより専門的な授業を受けたいと思う」「実験や実習の授業を多く受講したいと思う」「他の学部・学科の関心のある授業を受講したいと思う」という3つの項目については学生の要望を聞いているため、肯定的な意見が多いほど不満が多いということになるが、これらに関しては8割程度が肯定的な意見であり、強く要望を持っていると言えそうであった。
- 最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」であった。次いで「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」でも肯定的な意見は4割程度であり、同科目で異なる教員の対応に大きな不満を持っている様子がうかがえた。

要望を聞く質問

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

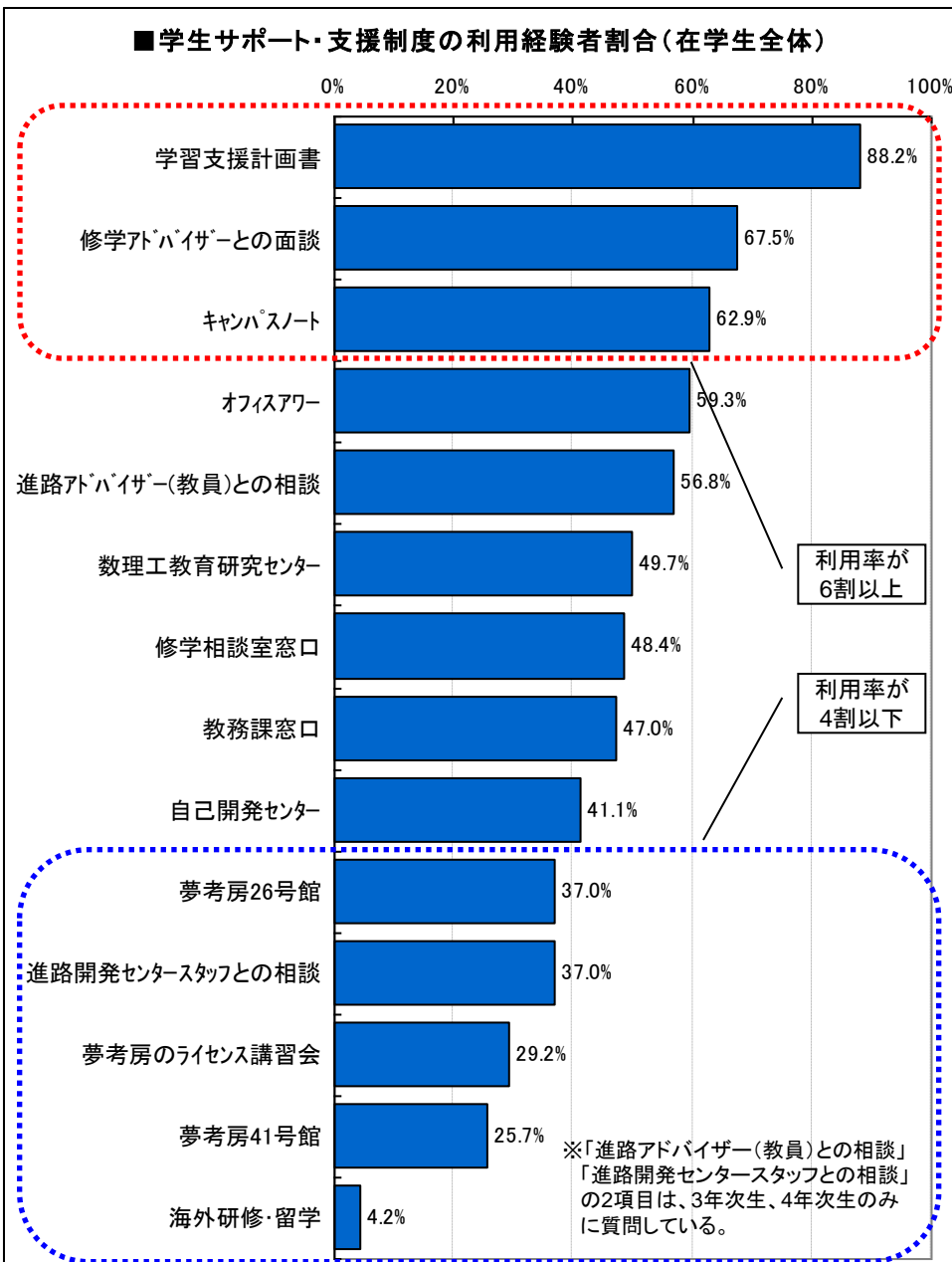
■ 授業の仕組みの評価(在学生)



<5-4> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度は、利用経験と評価を聞いているが、利用したという割合をグラフ化すると右記のようになった。
- 最も利用経験者の割合が多かったのは「学習支援計画書」であり、88.2%が利用経験ありと答えていた。
- 上記に次いで「修学アドバイザーとの面談」「キャンパスノート」と続いており、ここまでの3つは利用経験者が6割を超えていた。
- 一方、最も利用経験者が少なかったのは「海外研修・留学」の4.2%であり、他の項目と比べると利用者の少なさが突出していた。
- 「夢考房41号館」(25.7%)、「夢考房のライセンス講習会」(29.2%)、「進路開発センタースタッフとの相談」(37.0%)、「夢考房26号館」(37.0%)などの利用率も低く、ここまでの5項目の利用率は4割に満たなかった。

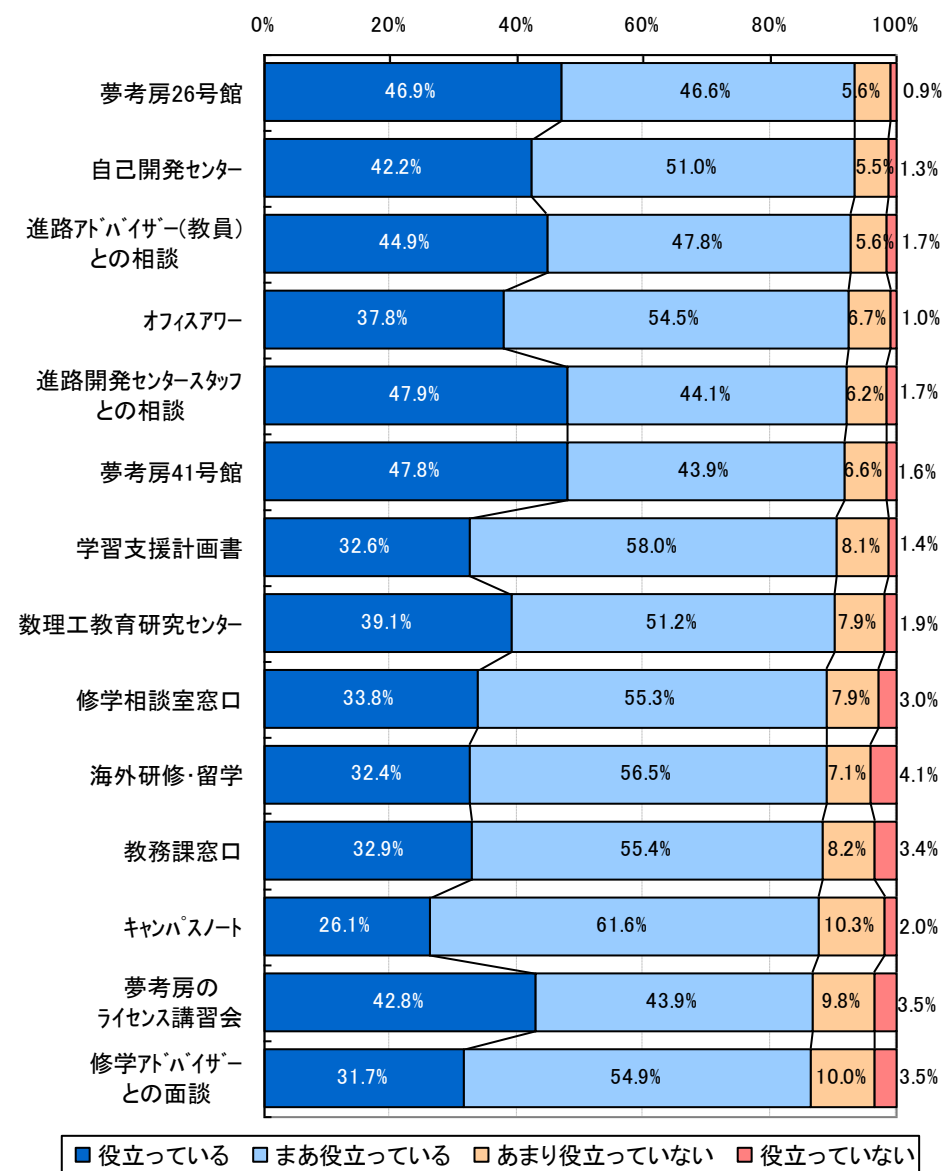


<5-5> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

- 学生サポート・支援制度の利用者に対して、各機能が役立っているかどうかの評価を聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」を合わせると、すべての項目で非常に評価が高く、8割以上が満足と答えていた。
- 最も評価が高かったのは「夢考房26号館」であり、93.5%が役立っていると答えていた。次いで「自己開発センター」(93.2%)、「進路アドバイザー(教員)との相談」(92.7%)と続いていた。
- 「役立っている」という回答だけで比較すると、「進路開発センタースタッフとの相談」「夢考房41号館」「夢考房26号館」などで多めであり、一部の学生が高く評価していることが分かる。
- 一方、最も評価が低かったのは「修学アドバイザーとの面談」であったが、それでも86.6%が役立ったと答えており、大きな問題はないのではないかと考えられた。

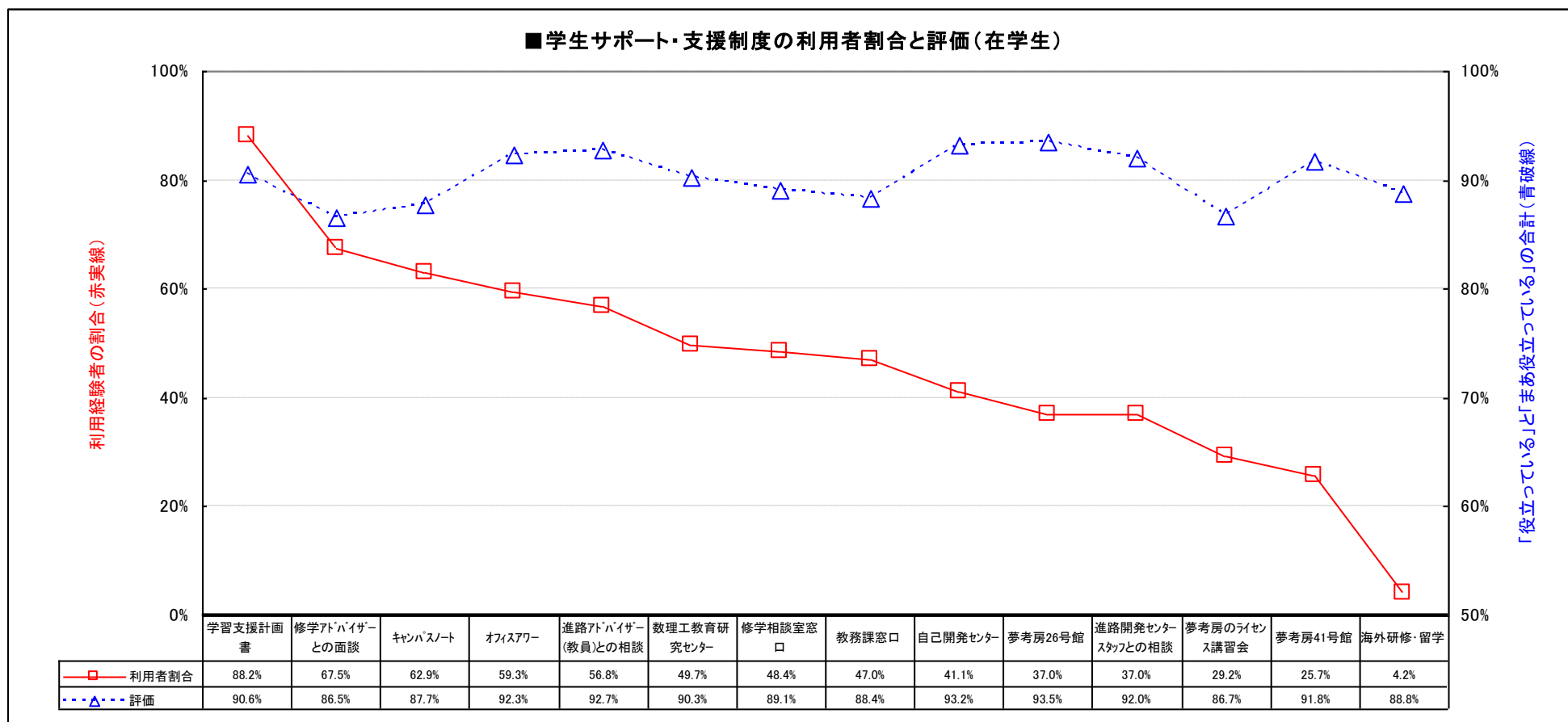
■ 学生サポート・支援制度の評価(在学生)



<5-6> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

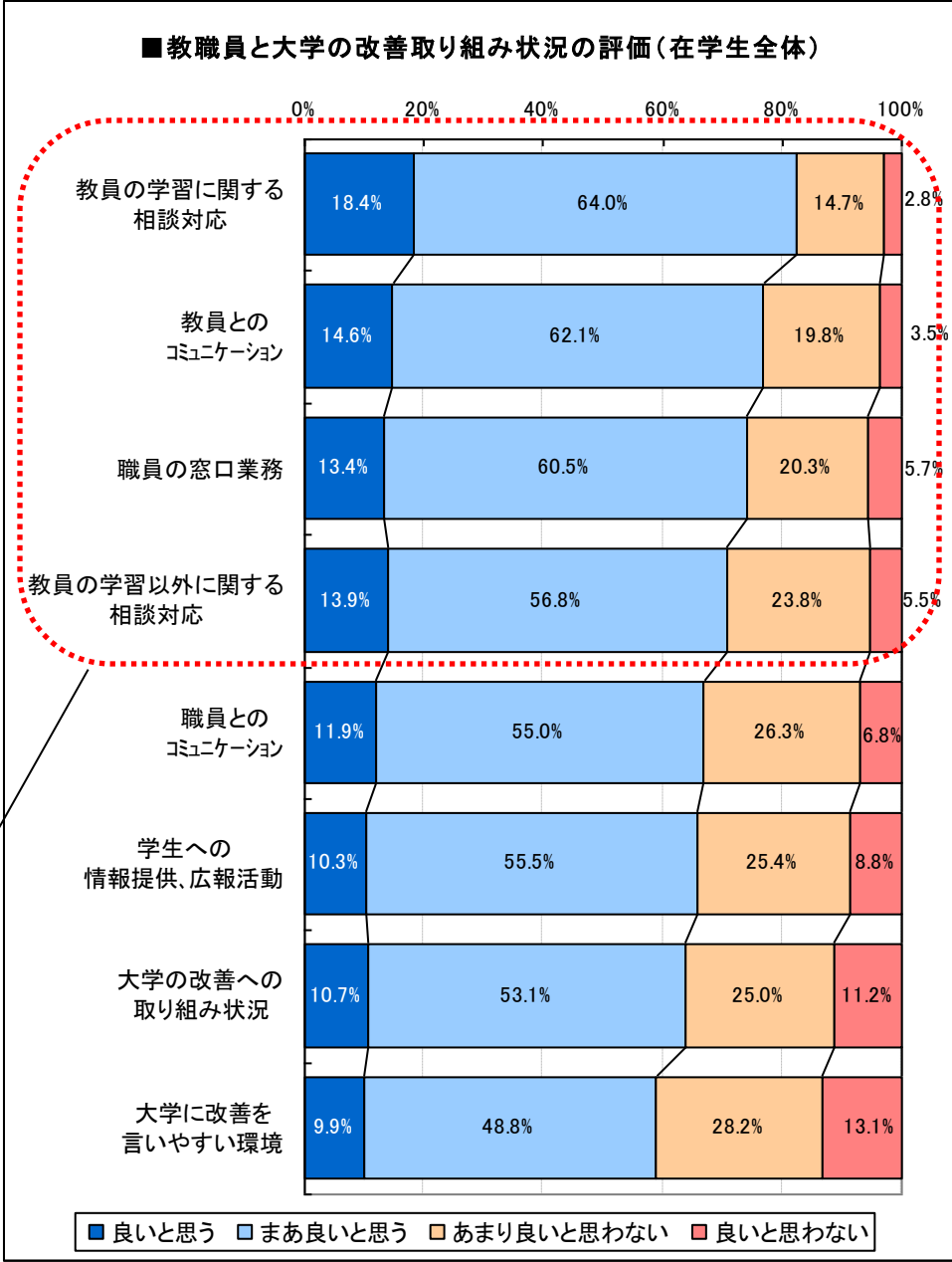
- 学生サポート・支援制度の利用経験者割合と内容評価を一緒に比較したところ、下記のグラフのようになった。赤い実線が利用経験者の割合であり、グラフの左側の数値軸に対応している。青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は「学習支援計画書」の88.2%から「海外研修・留学」の4.2%まで大きな差があったが、評価についてはいずれも8割以上が役立ったという意見であり、内容的には高い評価を得ていることが分かった。



<6-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員に関して、また、大学の改善への取り組み状況に関して、学生に8項目の評価を聞いた。
- 最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、82.4%が良いという評価であった。次いで、「教員とのコミュニケーション」で76.7%が良いという評価であり、この辺りを見ると学生と教員との関係は良好なようであった。
- 上記に次いで「職員の窓口業務」(73.9%)、「教員の学習以外に関する相談対応」(70.7%)と続いており、ここまでの4項目は良いという評価が7割以上を占めていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、良いという評価は58.7%であった。そして、「大学の改善への取り組み状況」でも63.8%であり、大学全体の改善に対しては不満がありそうであった。

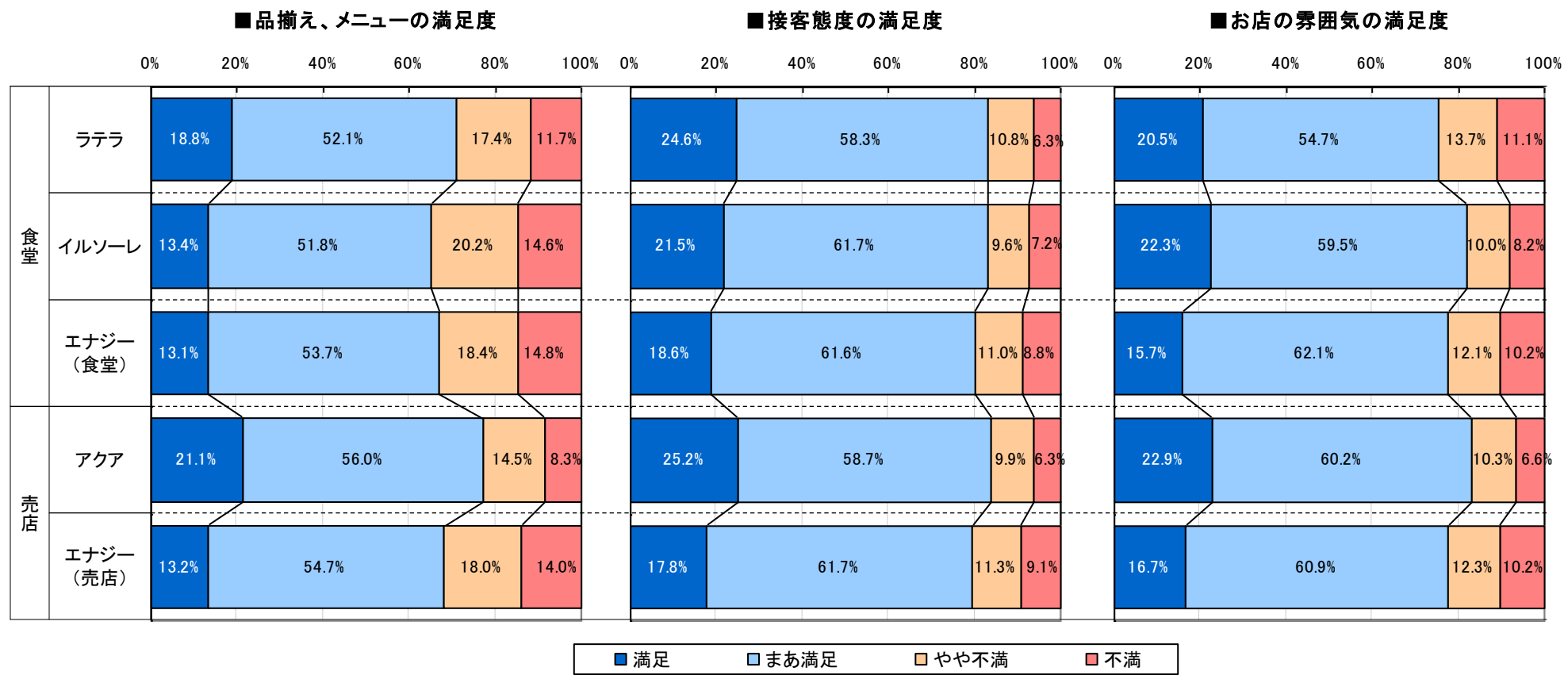


良い評価が7割以上

<7-1> 食堂、売店の評価

■ 全体評価

- 食堂(3箇所)、売店(2箇所)に関して、「品揃え、メニュー」「接客態度」「お店の雰囲気」の3つのポイントで評価を聞いた。
- 「品揃え、メニューの満足度」に関して、「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると、食堂の中ではラテラの満足度が最も高く、70.9%が満足と答えていた。次いで、「エナジー(食堂)」 「イルソーレ」と続いており、いずれも65%以上は満足という回答であった。また、売店では「アクア」で77.1%、「エナジー(売店)」で67.9%が満足という回答であり、食堂よりもやや満足度が高かった。
- 「接客態度」ではいずれの施設でもおおむね8割以上が満足しており、特に売店の「アクア」の満足度が高かった。
- 「お店の雰囲気」に関しても全体的に高く、いずれの施設でも75%以上が満足と答えていた。食堂では特に「イルソーレ」の満足度が高く、81.8%が満足と答えており、「売店」では「アクア」の満足度が高く、83.1%が満足と答えていた。

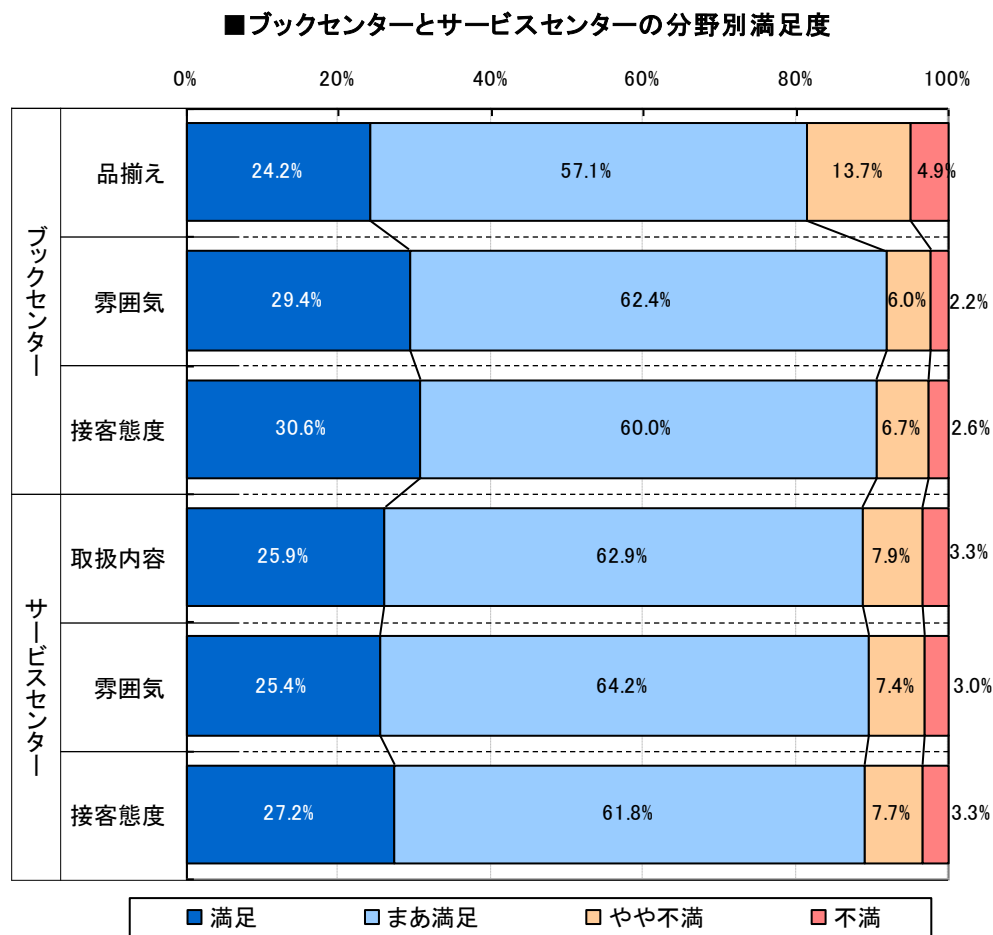


■ 満足 ■ まあ満足 ■ やや不満 ■ 不満

<7-2>ブックセンターとサービスセンターの評価

■ブックセンターとサービスセンターの分野別満足度

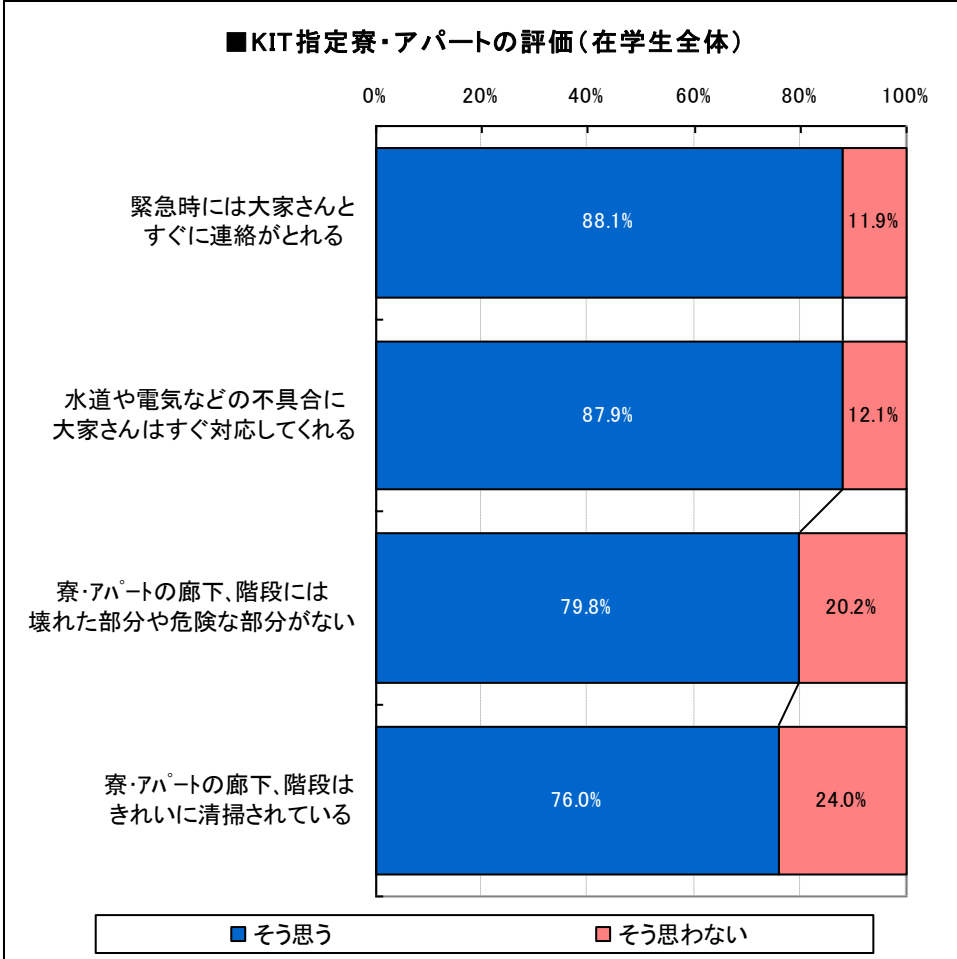
- 「ブックセンター」と「サービスセンター」に関しても、「品揃え・取扱内容」「雰囲気」「接客態度」の3項目の評価を聞いた。
- 「ブックセンター」では「品揃え」の評価がやや低く、81.3%が満足と答えており、「雰囲気」「接客態度」ではいずれも9割以上が満足と答えており、満足度は高かった。
- 「サービスセンター」では、「取扱内容」が88.8%、「雰囲気」が89.6%、「接客態度」が89.0%で、いずれも約9割が満足しており、全体的に満足度は高かった。



<7-3>KIT指定寮・アパートの評価

■KIT指定寮・アパートの評価

- KIT指定寮・アパートの評価に関しては、「KIT指定寮・アパートの入居者か否か」という基本的な事柄を聞いていないが、実際の回答では下の表のように約39%が「無回答」であり、これが非入居者の割合になっているものと思われ、グラフでは「無回答者」を除いたものを100%として集計している。
- 「緊急時には大家さんとすぐに連絡がとれる」という質問では88.1%が「そう思う」と答えていた。次に「水道や電気などの不具合に大家さんはすぐ対応してくれる」では87.9%が「そう思う」と答えていた。
- 「寮・アパートの廊下、階段には壊れた部分や危険な部分がない」では79.8%、「寮・アパートの廊下、階段はきれいに清掃されている」では76.0%が「そう思う」という回答であった。
- 大家さんとの関係は良好なようであったが、危険個所の対応や清掃に関しては2割前後の学生が不満を持っているようであった。



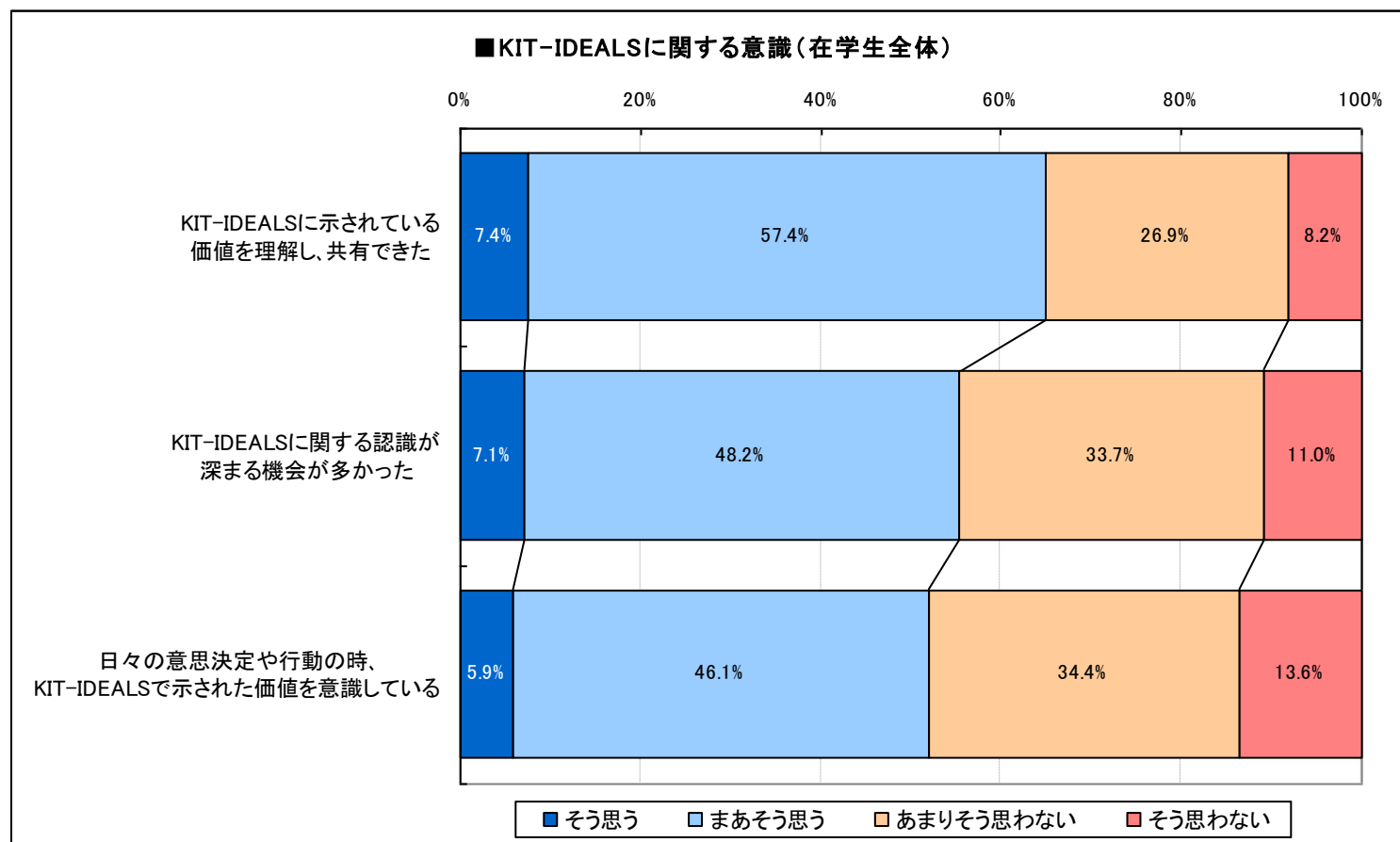
■「無回答」も含めた回答割合

	そう思う	そう思わない	無回答
緊急時には大家さんとすぐに連絡がとれる	46.4%	14.6%	39.0%
水道や電気などの不具合に大家さんはすぐ対応してくれる	48.7%	12.3%	39.0%
寮・アパートの廊下、階段には壊れた部分や危険な部分がない	53.6%	7.2%	39.1%
寮・アパートの廊下、階段はきれいに清掃されている	53.4%	7.3%	39.2%

<8-1>KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

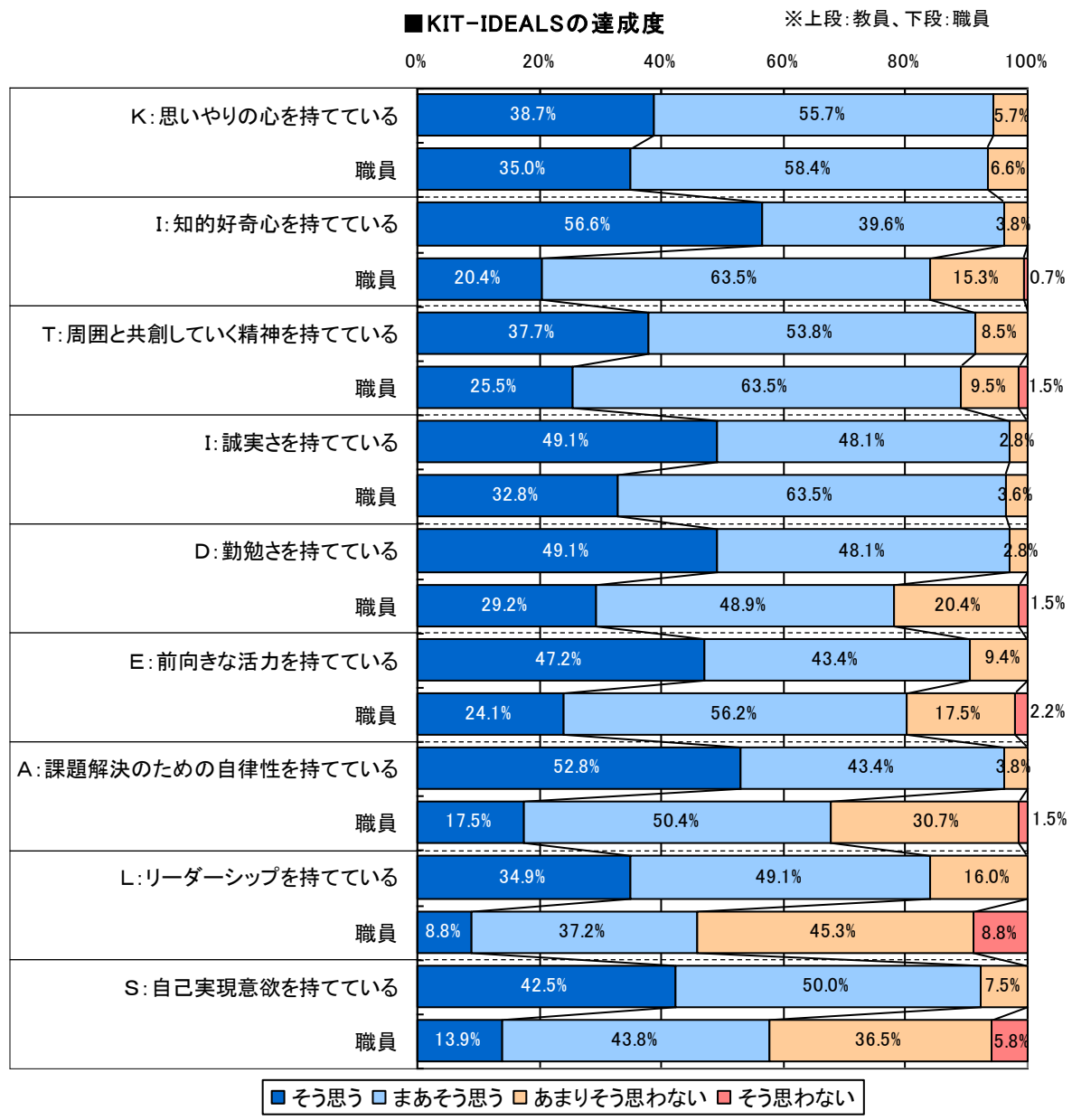
- KIT-IDEALSに関する意識を見ると、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」では64.8%が肯定的な意見で、最も多かった。しかし、一方で、35.1%が否定的な意見であり、価値を理解できていない学生も少なくなかった。
- 上記に次いで「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では55.3%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では52.0%が肯定的な意見であった。



<8-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

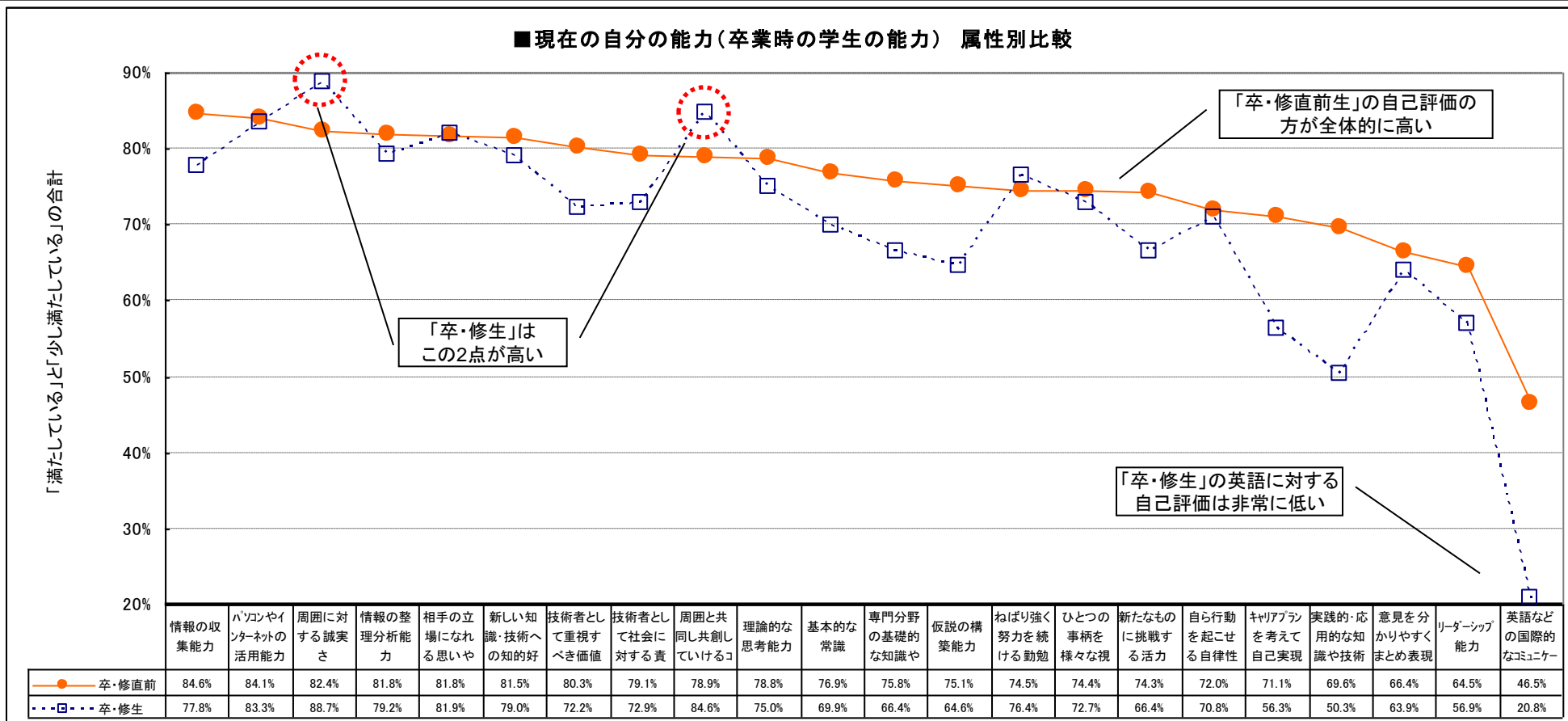
- 教職員に「KIT-IDEALS」の各項目に関する達成度を聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「K: 思いやりの心を持っている」「T: 周囲と共創していく精神を持っている」「I: 誠実さを持っている」の3項目は「教員」と「職員」の差が少なく、いずれもほぼ9割以上が肯定的な意見であった。
- 上記以外の項目では「教員」と「職員」の差が見られ、すべての項目で「教員」の方が達成度が高く、1項目を除いて9割以上が肯定的な意見であった。
- 「職員」は達成度が低い項目がいくつか見られ、「L: リーダーシップを持っている」では肯定的な意見が46.0%、「S: 自己実現意欲を持っている」では57.7%、「A: 課題解決のための自律性を持っている」では67.9%であり、これらの項目での達成度がやや低かった。



<9-1>卒業時の能力

■卒業時の能力の属性別比較

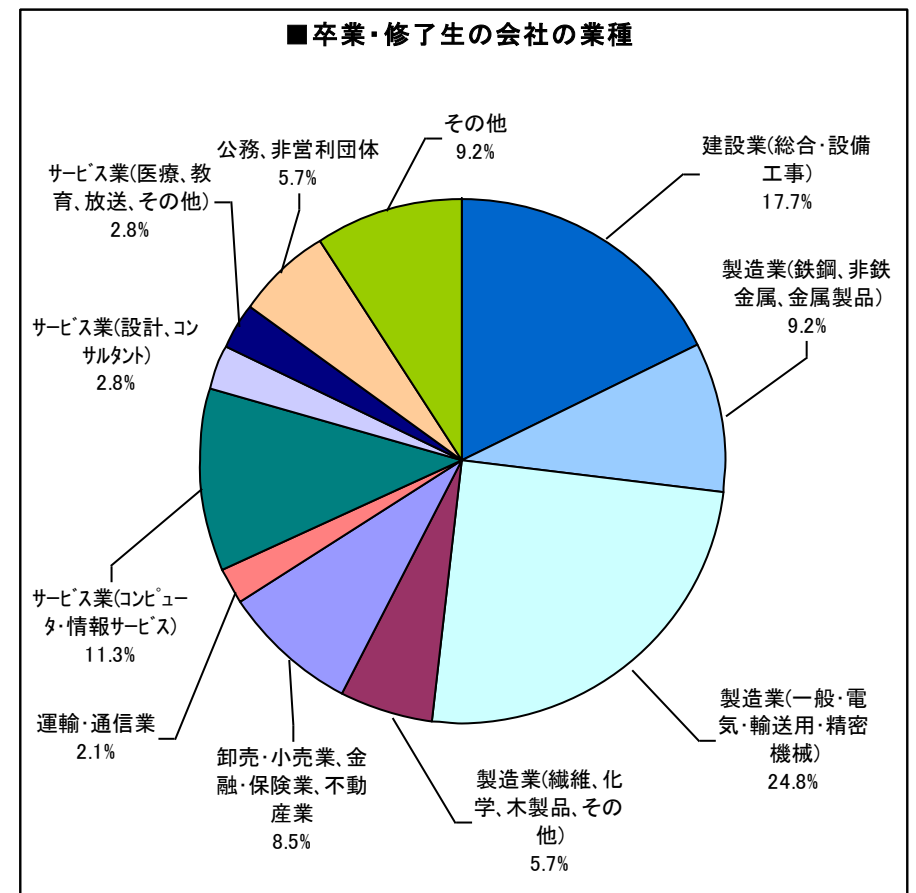
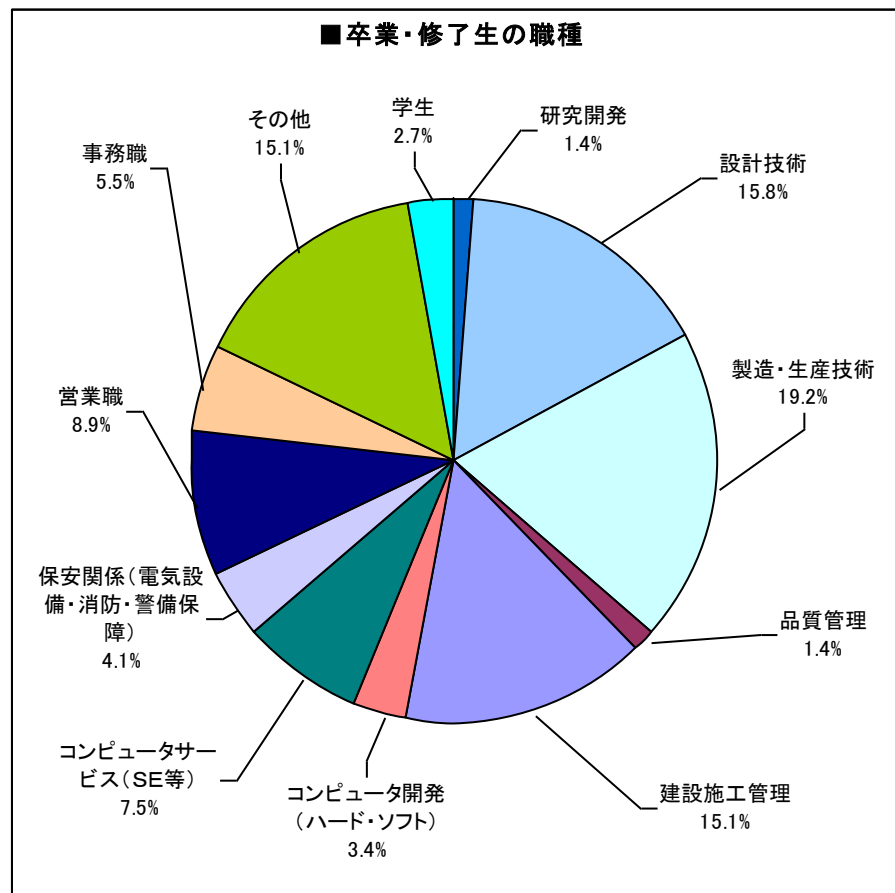
- 卒業時の能力は「卒・修直前」と「卒・修生」に聞いており、下のグラフは「卒・修直前」の「満たしている」と「少し満たしている」の合計でソートしている。
- 「卒・修直前」は「情報の収集能力」に最も自信を持っており、次いで「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲に対する誠実さ」「情報の整理分析能力」「相手の立場になれる思いやりの心」と続いていた。一方、最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」で、この低さは際だっており、「リーダーシップ能力」「意見を分かりやすくまとめ表現できる能力」なども低かった。
- 「卒・修生」は全体的に「卒・修直前」より厳しい自己評価となっていたが、「周囲に対する誠実さ」と「周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力」の高さが目立っており、周囲との関係に自信を持っている様子がうかがえた。そして、特徴的であったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の低さであり、社会人になって改めて英語能力を見つめ直しているのではないかと思われた。また、「実践的・応用的な知識や技術」「キャリアプランを考えて自己実現を目指す姿勢」の低さも目立っており、「卒・修直前」とは少し違いが見られた。



<10-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種と会社の業種

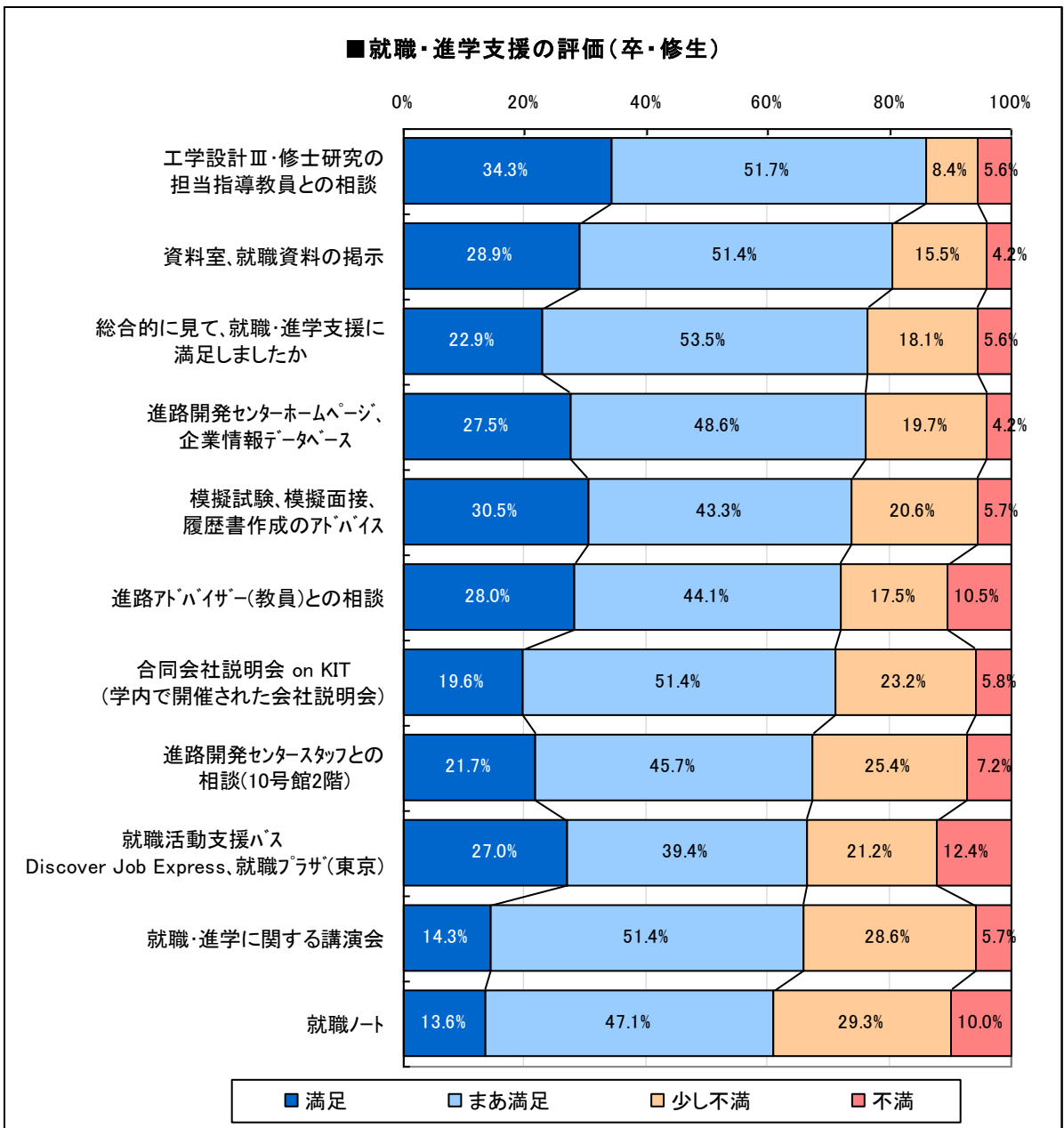
- 卒業・修了生に対するアンケートでは基本的な属性を聞いているが、その内容は下記の通りであった。
- 職種では「製造・生産技術」の19.2%が最も多く、「設計技術」(15.8%)、「建設施工管理」(15.1%)、「営業職」(8.9%)と続いていた。
- 勤務する会社の業種では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が24.8%で最も多く、次いで「建設業(総合・設備工事)」が17.7%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が11.3%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」が9.2%と続いていた。



<10-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 卒・修生には就職・進学支援に関する満足度を聞いている。
- 「満足」と「まあ満足」の合計で見ると「工学設計Ⅲ・修士研究の担当指導教員との相談」の満足度が最も高く、86.0%が満足と答えていた。
- 上記に次いで「資料室、就職資料の掲示」(80.3%)、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」(76.1%)など、データや資料の評価が高く、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」という問いに関しては76.4%が満足と答えていた。
- 最も満足度が低かったのは「就職ノート」であり、満足という回答は60.7%であった。そして、「就職・進学に関する講演会」は65.7%、「就職活動支援バス、就職プラザ」は66.4%が満足という回答であった。ただし、「就職活動支援バス、就職プラザ」では「満足」が27.0%、「不満」が12.4%と両極端が多く、意見が分かれる結果となっていた。

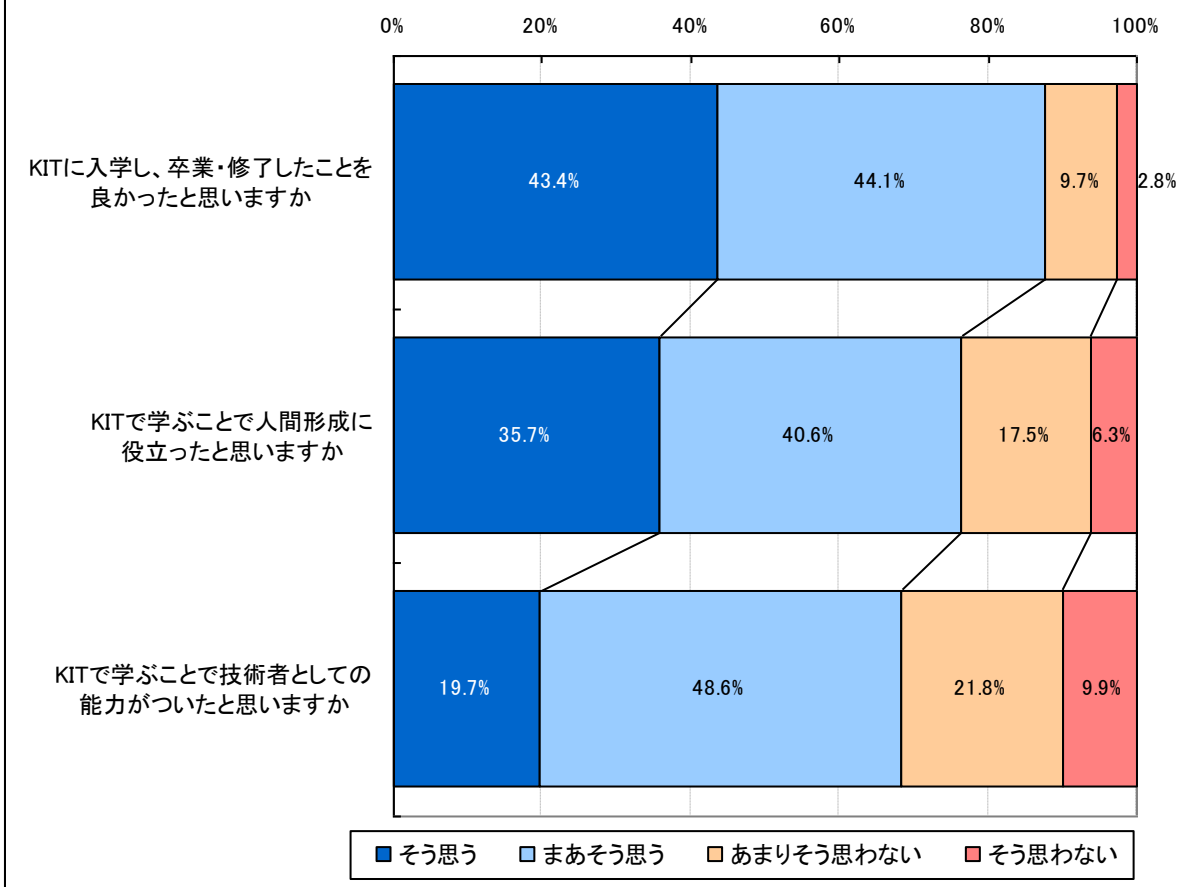


<10-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

- 卒業生、修了生に対し、卒業後に振り返ってKITをどう思うか聞いたところ、右のグラフのようになった。
- 「KITに入学し、卒業・修了したことを良かったと思いますか」では、43.4%が「そう思う」、44.1%が「まあそう思う」と答えており、合わせると87.5%がKITを卒業・修了したことを良かったと感じていることが分かった。
- 上記に次いで、「KITで学ぶことで人間形成に役立ったと思いますか」に関しては76.3%、「KITで学ぶことで技術者としての能力がついたと思いますか」に関しては68.3%が肯定的な意見であり、技術者としての能力育成にはやや不満を持っているようであった。

■卒業後に振り返ってのKITの評価(卒・修生)



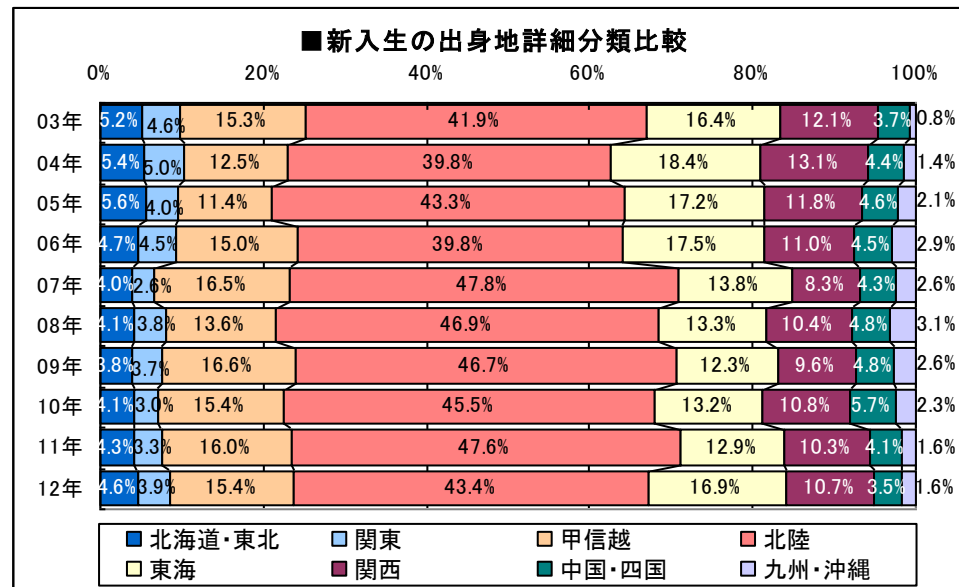
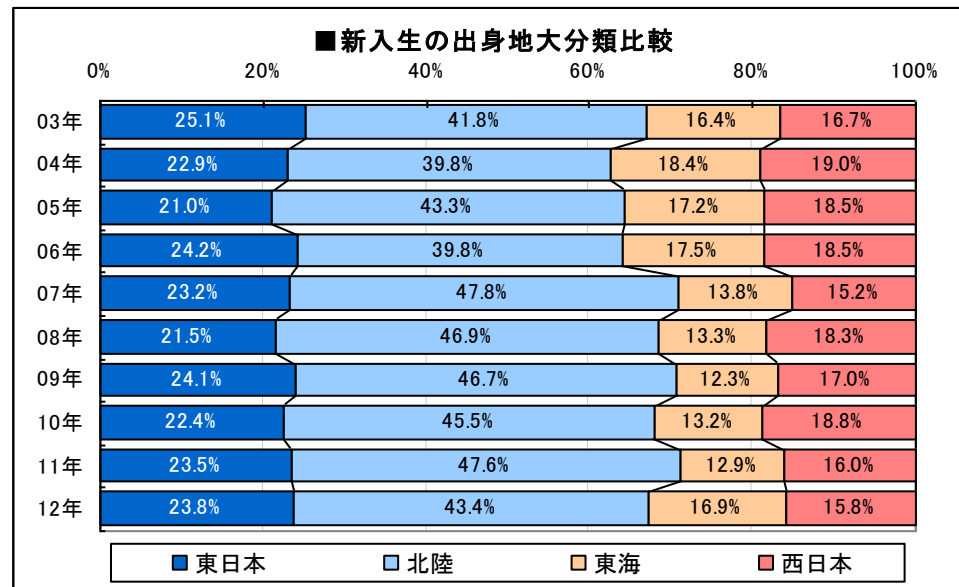
<11-1>新入生のプロフィール

■新入生の学部・学科、出身地

- 新入生でアンケートに回答したのは1,745名であり、「工学部」が53.1%、「情報フロンティア学部」が16.8%、「環境・建築学部」が18.5%、「バイオ・化学部」が11.1%という割合であった。
- 出身地域では、「北陸」が43.4%で最も多く、次いで「東日本」が23.8%、「東海」が16.9%と続いていた。
- 出身地域を詳細に見ると、「北陸」「東海」「甲信越」「関西」という順になっており、前回と比べると「北陸」が減少して「東海」が増加していた。

■学部・学科割合

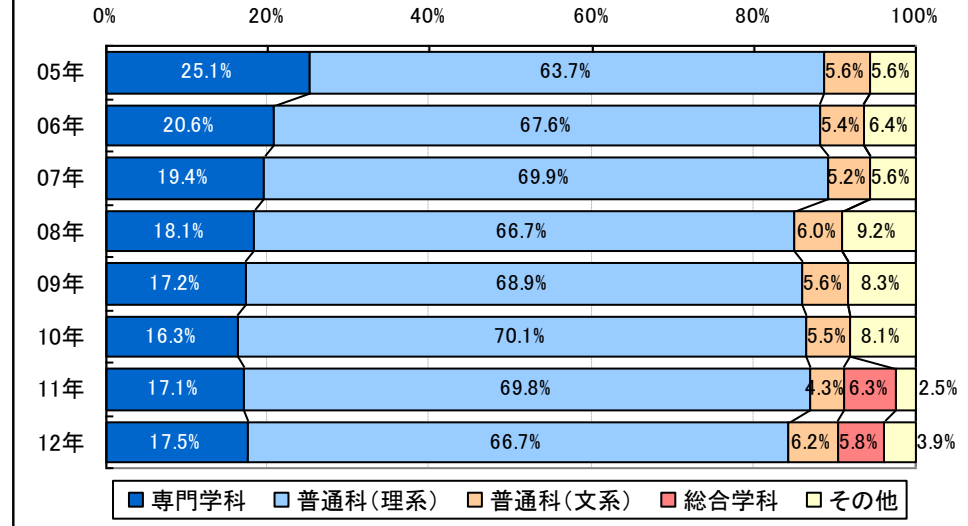
学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	926	53.1%	222	12.7%
	航空システム工学科			59	3.4%
	ロボティクス学科			123	7.0%
	電気電子工学科			214	12.3%
	電子情報通信工学科			77	4.4%
	情報工学科			231	13.2%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	293	16.8%	165	9.5%
	経営情報学科			61	3.5%
	心理情報学科			67	3.8%
環境・建築学部	建築デザイン学科	323	18.5%	132	7.6%
	建築学科			126	7.2%
	環境土木工学科			65	3.7%
バイオ・化学部	応用化学科	193	11.1%	92	5.3%
	応用バイオ学科			101	5.8%
	無回答	10	0.6%	10	0.6%
	合計	1,745	100.0%	1,745	100.0%



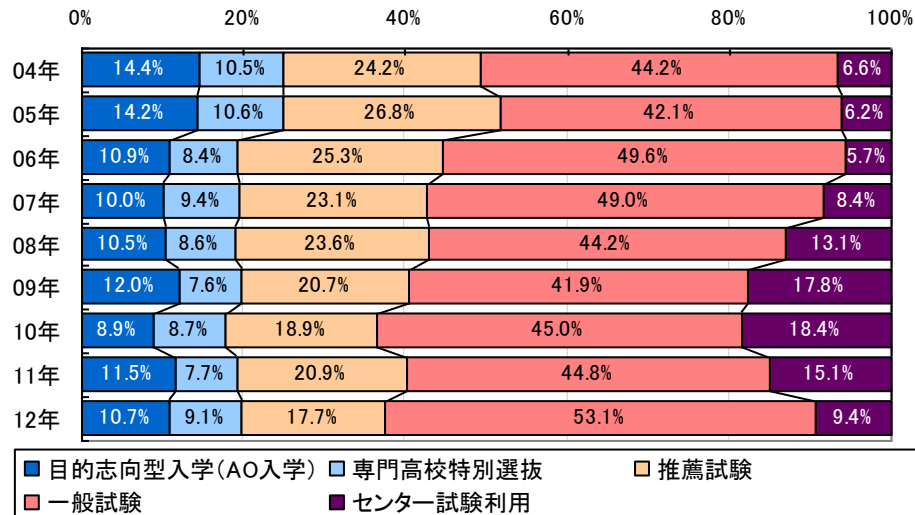
■新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般入試」が53.1%と最も多く、「推薦試験」(17.7%)、「目的志向型入学(AO入学)」が10.7%と続いていた。
- 前回と比べると「一般入試」の増加が目立っており、これまでで最も多くなっていた。一方、「推薦試験」「センター試験利用」は減少していた。
- 出身高校の課程では「普通科(理系)」が66.7%と最も多く、「専門学科」が17.5%、「普通科(文系)」が6.2%、前回から加えた「総合学科」が5.8%と続いていた。以前と大きな差は見られなかったが、「普通科(理系)」はやや減少し、「普通科(文系)」がやや増加していた。
- 入学時の現浪の比較では、「現役入学」が91.6%とであり、以前との差はほとんど見られなかった。

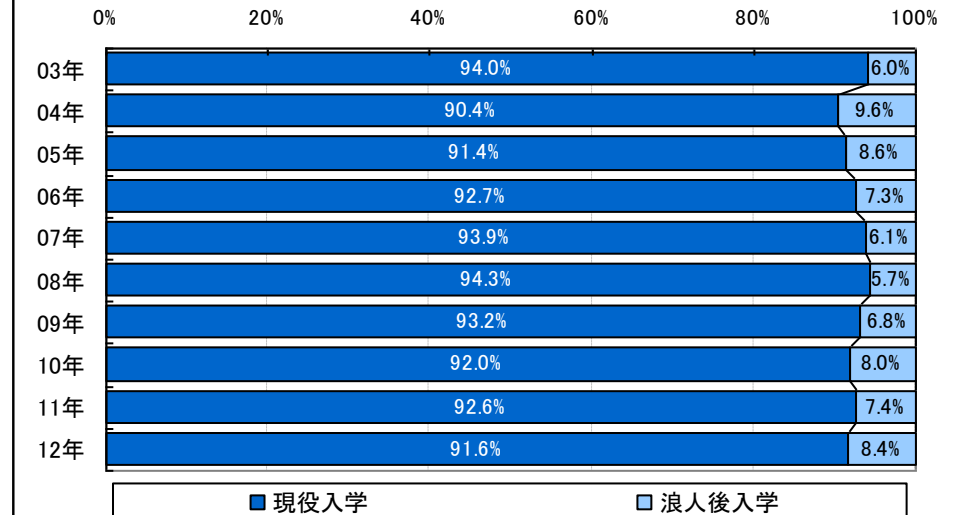
■新入生の出身高校課程比較



■入試の種類



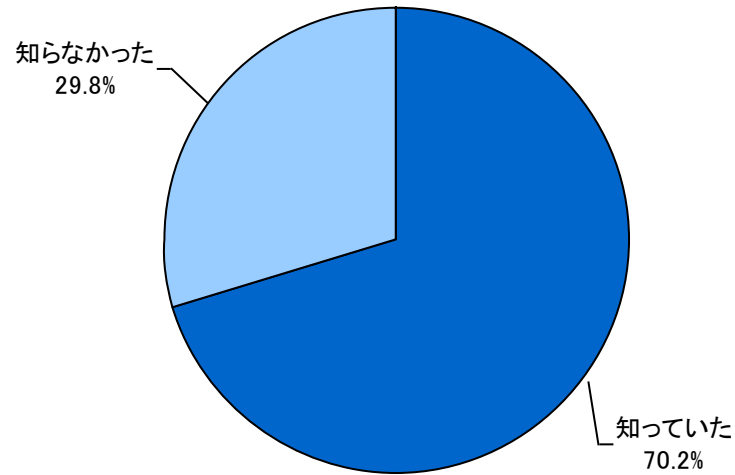
■新入生の入学時の現浪比較



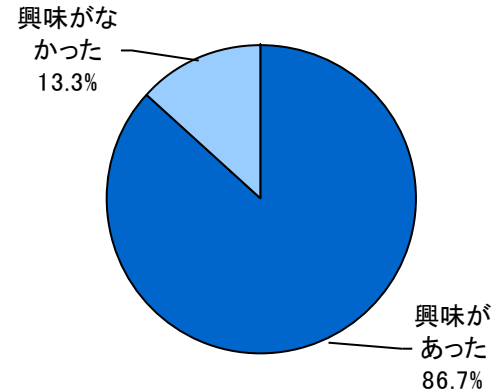
■特別奨学生制度対象入試の受験

- 「特別奨学生制度」に関しては今回から聞き方を変えているが、まず、制度自体を知っているかを聞いたところ、70.2%が「知っていた」と答えていた。
- 制度を「知っていた」と答えた学生に「制度への興味」を聞いたところ、86.7%が興味を持っており、大きな興味を引いていることが分かった。
- 同様に制度を知っている学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、「受験した」という回答は60.8%であり、興味を持ちながらも受験しなかった学生が少なくないことが分かった。(前回にも「受験の有無」は聞いたが、認知の確認をしていないなど質問方法が変わっているため、年度別の比較は行っていない。)

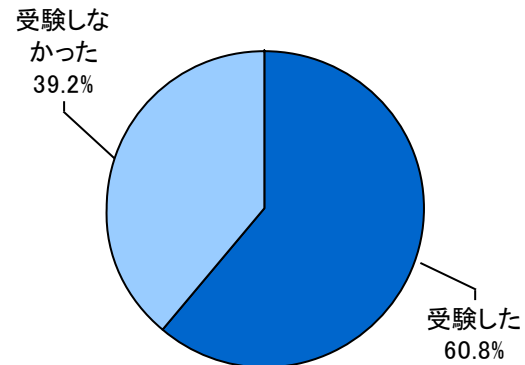
■特別奨学生制度対象入試の認知度



■特別奨学生制度対象入試への興味



■特別奨学生制度対象入試の受験



過去4年間の出身地一覽

09年 出身地一覽

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	13	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.3%		
岩手県	1	0.1%		
宮城県	3	0.2%		
秋田県	16	1.0%		
山形県	18	1.1%		
福島県	4	0.3%		
茨城県	12	0.8%		
栃木県	7	0.4%		
群馬県	20	1.3%		
埼玉県	2	0.1%		
千葉県	7	0.4%		
東京都	5	0.3%		
神奈川県	4	0.3%		
新潟県	131	8.4%		
山梨県	14	0.9%		
長野県	113	7.2%		
富山県	208	13.3%		
石川県	398	25.4%		
福井県	119	7.6%		
岐阜県	50	3.2%		
静岡県	62	4.0%		
愛知県	57	3.6%		
三重県	22	1.4%		
滋賀県	43	2.7%		
京都府	33	2.1%		
大阪府	18	1.1%		
兵庫県	43	2.7%		
奈良県	4	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	20	1.3%		
広島県	13	0.8%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	4	0.3%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	2	0.1%		
福岡県	16	1.0%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	8	0.5%		
不明	14	0.9%		
合計	1568	100.0%	1568	100.0%

10年 出身地一覽

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	13	0.8%		
秋田県	16	0.9%		
山形県	13	0.8%		
福島県	5	0.3%		
茨城県	8	0.5%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	15	0.9%		
埼玉県	5	0.3%		
千葉県	6	0.3%		
東京都	3	0.2%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	161	9.3%		
山梨県	1	0.1%		
長野県	102	5.9%		
富山県	225	13.1%		
石川県	433	25.1%		
福井県	123	7.1%		
岐阜県	64	3.7%		
静岡県	81	4.7%		
愛知県	53	3.1%		
三重県	29	1.7%		
滋賀県	45	2.6%		
京都府	24	1.4%		
大阪府	31	1.8%		
兵庫県	67	3.9%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	13	0.8%		
鳥取県	10	0.6%		
島根県	7	0.4%		
岡山県	23	1.3%		
広島県	18	1.0%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	14	0.8%		
香川県	7	0.4%		
愛媛県	7	0.4%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	20	1.2%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	5	0.3%		
不明	8	0.5%		
合計	1723	100.0%	1723	100.0%

11年 出身地一覽

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.2%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	5	0.3%		
秋田県	10	0.6%		
山形県	18	1.1%		
福島県	10	0.6%		
茨城県	10	0.6%		
栃木県	4	0.2%		
群馬県	19	1.2%		
埼玉県	3	0.2%		
千葉県	4	0.2%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	6	0.4%		
新潟県	152	9.5%		
山梨県	9	0.6%		
長野県	94	5.8%		
富山県	229	14.3%		
石川県	408	25.4%		
福井県	122	7.6%		
岐阜県	60	3.7%		
静岡県	59	3.7%		
愛知県	49	3.0%		
三重県	38	2.4%		
滋賀県	55	3.4%		
京都府	19	1.2%		
大阪府	25	1.6%		
兵庫県	55	3.4%		
奈良県	6	0.4%		
和歌山県	5	0.3%		
鳥取県	4	0.2%		
島根県	9	0.6%		
岡山県	12	0.7%		
広島県	14	0.9%		
山口県	3	0.2%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	8	0.5%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	11	0.7%		
佐賀県	0	0.0%		
長崎県	11	0.7%		
熊本県	1	0.1%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	1	0.1%		
鹿児島	0	0.0%		
沖縄県	2	0.1%		
不明	11	0.7%		
合計	1607	100.0%	1607	100.0%

12年 出身地一覽

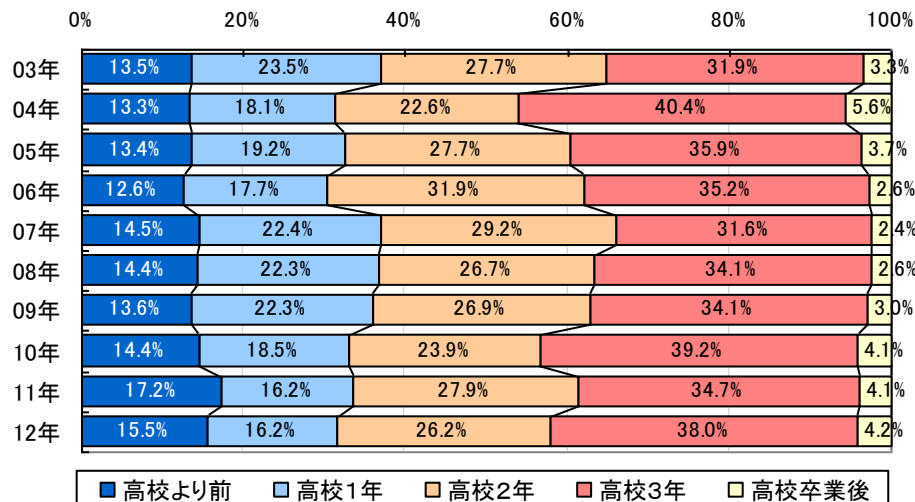
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.1%	東日本	北海道・東北
青森県	8	0.5%		
岩手県	7	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	8	0.5%		
山形県	20	1.1%		
福島県	10	0.6%		
茨城県	12	0.7%		
栃木県	8	0.5%		
群馬県	23	1.3%		
埼玉県	6	0.3%		
千葉県	5	0.3%		
東京都	7	0.4%		
神奈川県	6	0.3%		
新潟県	160	9.2%		
山梨県	6	0.3%		
長野県	99	5.7%		
富山県	222	12.7%		
石川県	419	24.0%		
福井県	108	6.2%		
岐阜県	81	4.6%		
静岡県	97	5.6%		
愛知県	78	4.5%		
三重県	36	2.1%		
滋賀県	53	3.0%		
京都府	31	1.8%		
大阪府	27	1.5%		
兵庫県	56	3.2%		
奈良県	8	0.5%		
和歌山県	9	0.5%		
鳥取県	7	0.4%		
島根県	3	0.2%		
岡山県	22	1.3%		
広島県	15	0.9%		
山口県	4	0.2%		
徳島県	3	0.2%		
香川県	1	0.1%		
愛媛県	5	0.3%		
高知県	1	0.1%		
福岡県	14	0.8%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	2	0.1%		
鹿児島	1	0.1%		
沖縄県	4	0.2%		
不明	20	1.1%		
合計	1745	100.0%	1745	100.0%

<11-3>KITの認知経路などに関して

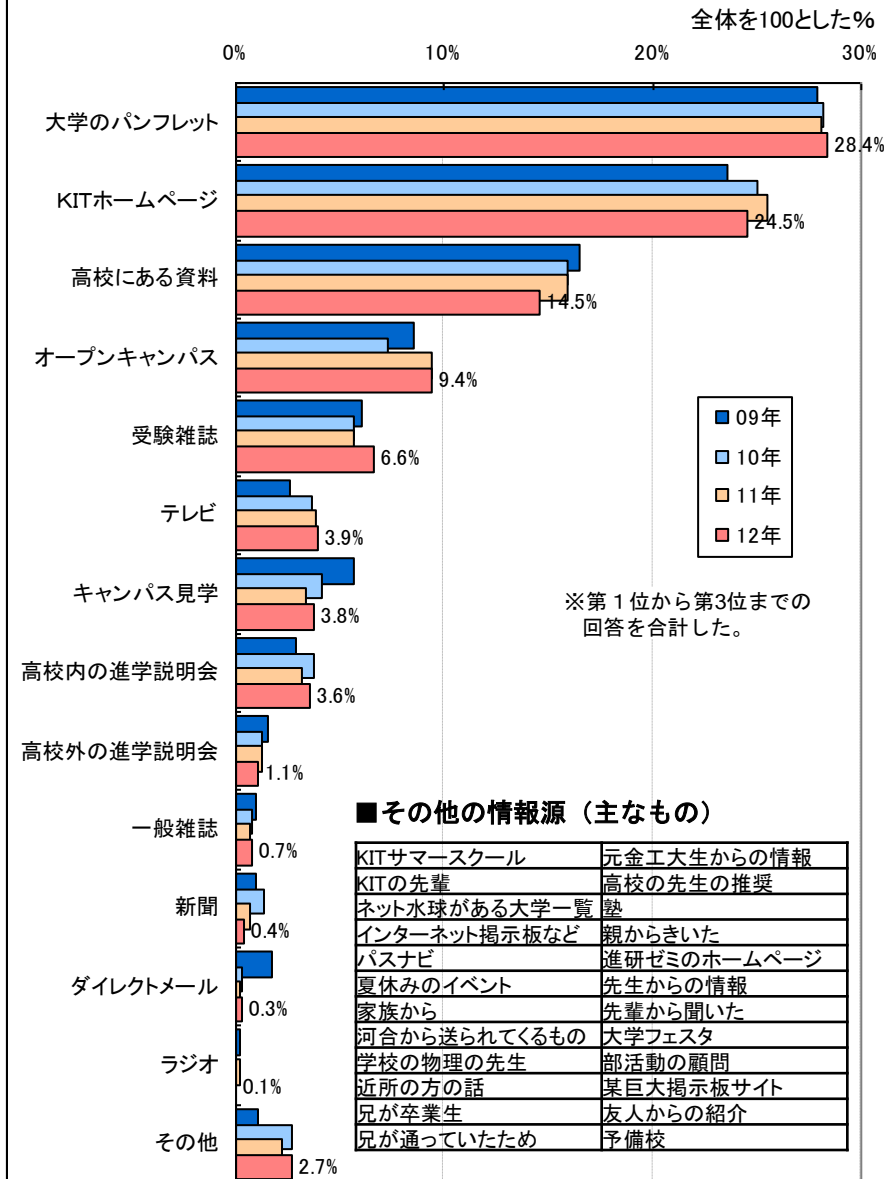
■KITを知った時期と利用した媒体

- KITを知った時期は「高校3年」が38.0%と最も多く、「高校2年」(26.2%)、「高校1年」(16.2%)と続いていた。以前との比較では大きな変化は見られないが、前回より「高校より前」が減少して「高校3年」が増加していた。
- KITを知るために使った媒体では「大学のパンフレット」が28.4%と最も多く、次いで「KITホームページ」(24.5%)、「高校にある資料」(14.5%)と続いていた。
- 年度別比較では大きな変化はないが、「KITホームページ」が増加から減少に転じていた。また、「高校にある資料」もやや減少し、「受験雑誌」が増加していた。
- 次項の「KIT入学を相談した人」も以前と大きな変化は見られないが、「親・親戚」の増加傾向と、「相談しなかった」の減少傾向が続いていた。
- 「学科を選択した理由」についても大きな変化は見られなかったが、「学科で学ぶ内容」の増加と「就職内容」の減少が続いていた。いずれもわずかな変化ではあるが、学生の意識変化が見られる。

■新入生 KITを知った時期比較

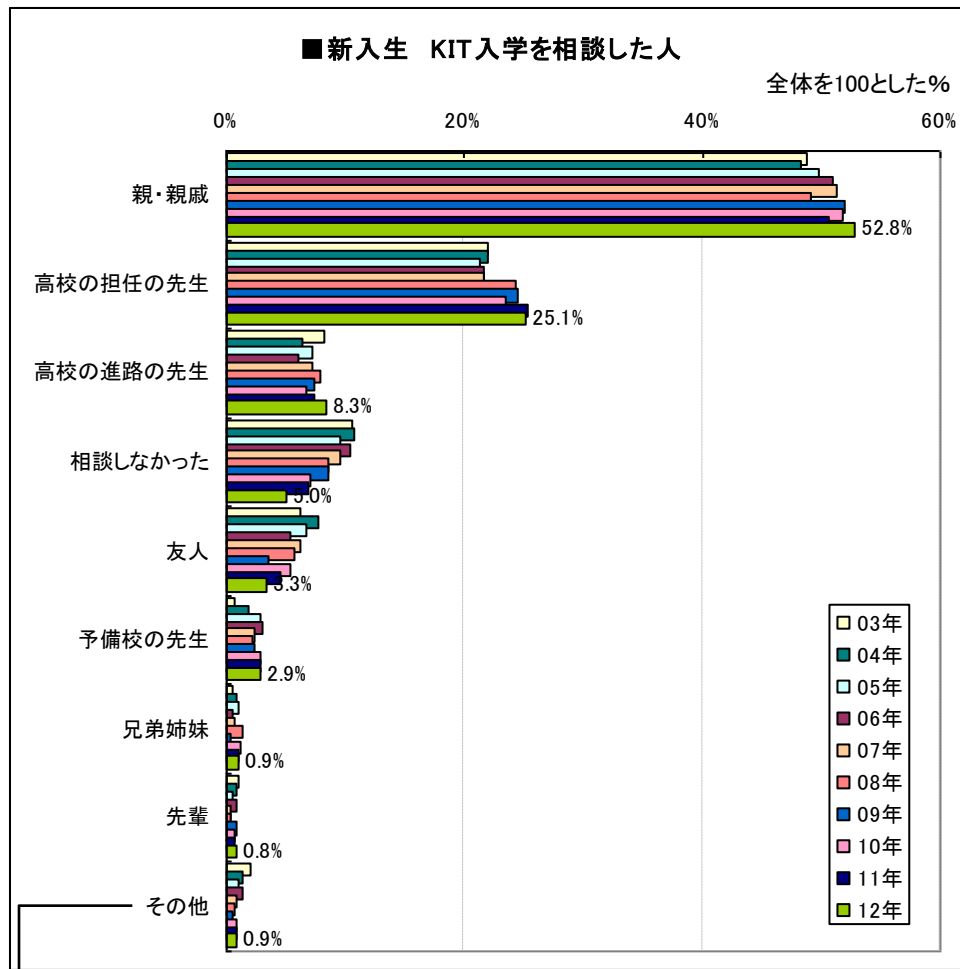


■新入生 KITを知るために使った媒体比較



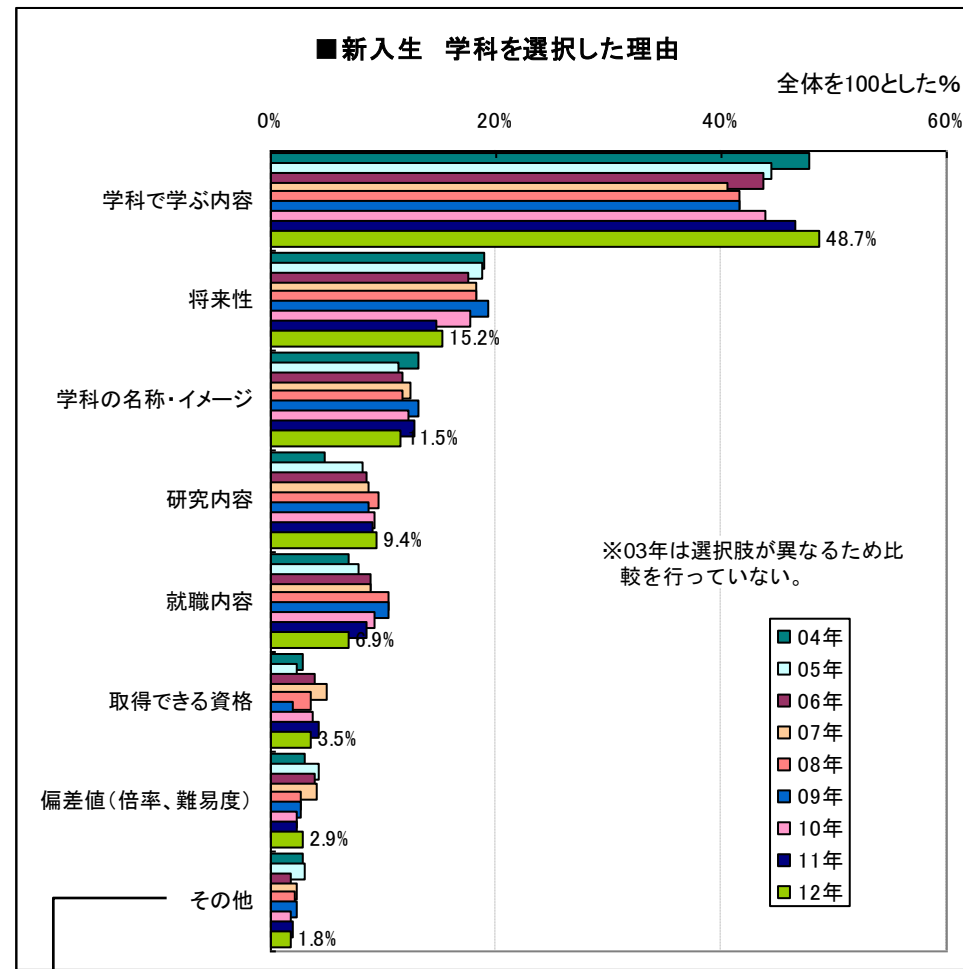
■その他の情報源 (主なもの)

KITサマースクール	元金工大生からの情報
KITの先輩	高校の先生の推奨
ネット水球がある大学一覧	塾
インターネット掲示板など	親からきいた
パスナビ	進研ゼミのホームページ
夏休みのイベント	先生からの情報
家族から	先輩から聞いた
河合から送られてくるもの	大学フェスタ
学校の物理の先生	部活動の顧問
近所の方の話	某巨大掲示板サイト
兄が卒業生	友人からの紹介
兄が通っていたため	予備校



■ その他の相談相手

1つにはしほれない	塾の先生
カウンセラーの先生	塾の先生と、高校の仲良かった先生
家庭教師の先生	小学校の担任の先生
高校の化学の先生	美術科の担当教師
高校の先生	部活動の顧問
高校の物理の先生	本学しか入学できなかった
塾の先生	理科の先生



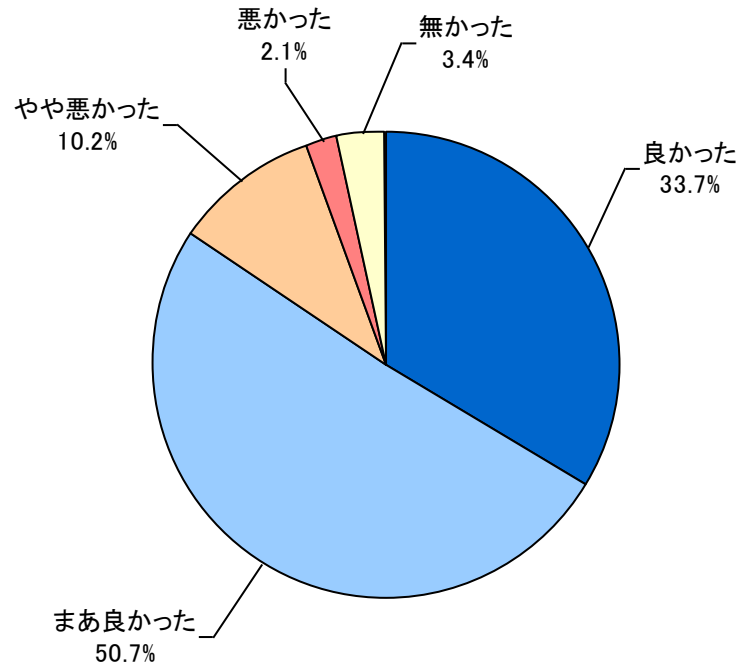
■ その他の学科選択理由

ロボットに興味があったから	高校が土木科だったから
一番学力が高かった	高校で機械科だったから
化学の変化に興味があった	高校時代化学が一番できたため。
化学分野に興味があったから	最低限航空関係の職に就きたいから
機械科だったから(高校)	自分の目標のため
教授がよかった	製品デザインの次に建築がやりたかったから
興味がある学科だったから	設備がよかったから。
月見光路したい!	前から気になっていた
工業高校の電気科にいたため	父や祖父の影響
高校が電気科だったから	夢の実現のため

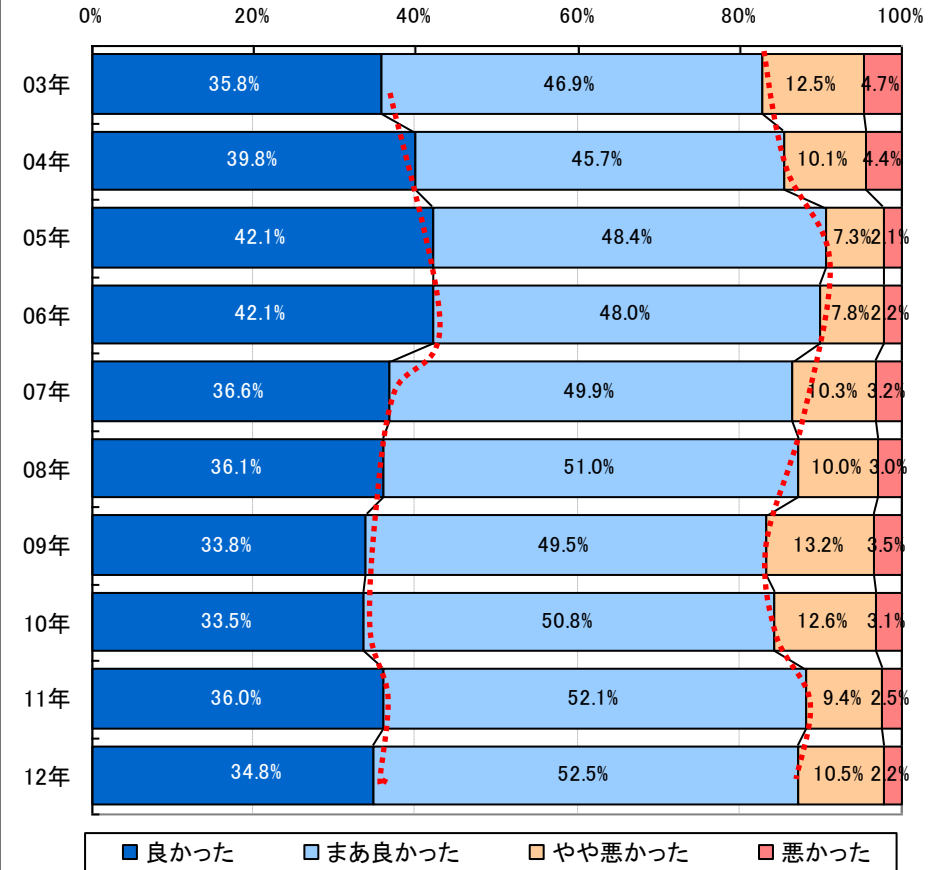
■入学前のKITのイメージ

- 入学前のKITのイメージでは、「良かった」は33.7%、「まあ良かった」は50.7%であり、合わせると84.4%が良いイメージを持っていた。
- 今回から「無かった」という選択肢を加えているため、厳密にはこれまでの結果との比較はできないが、参考として「無かった」を除外したものを100%として比較したところ、それほど大きな変化ではなかったが、良いイメージを持っている意見がわずかに減少していた。

■新入生 入学前のKITのイメージ

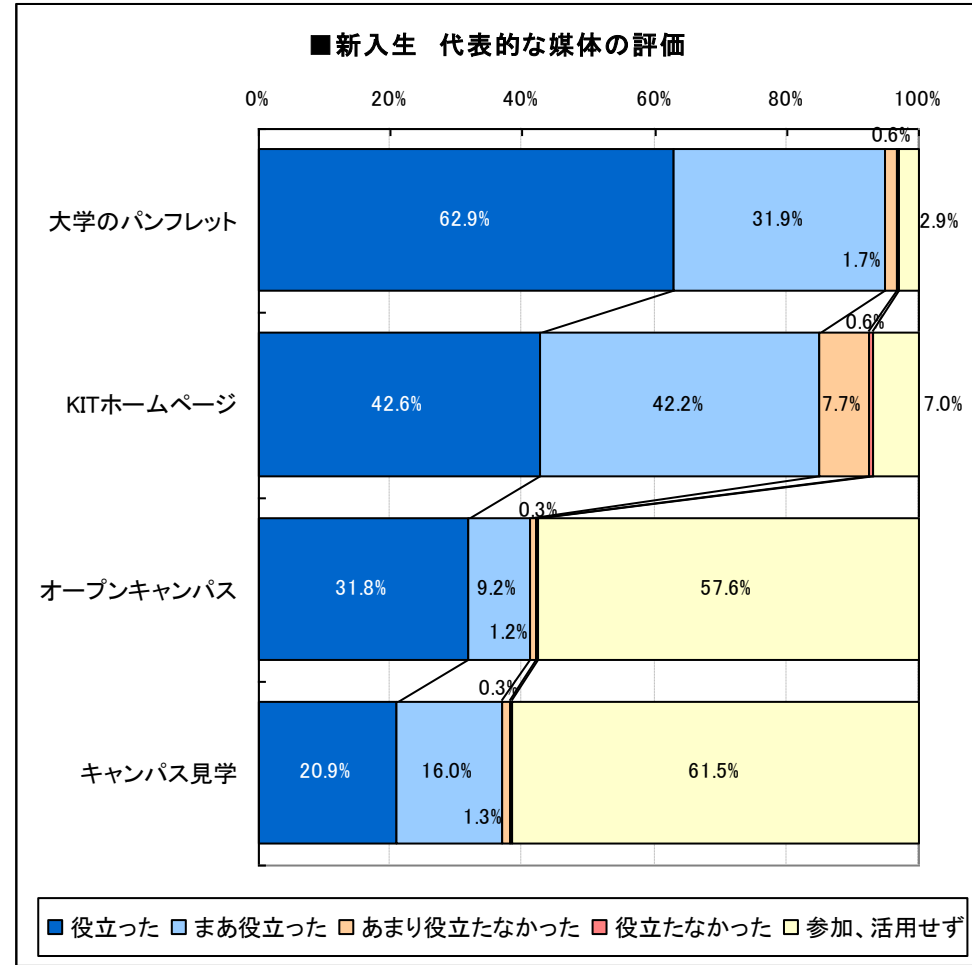


■新入生 入学前のKITのイメージ



■ 代表的な媒体の評価

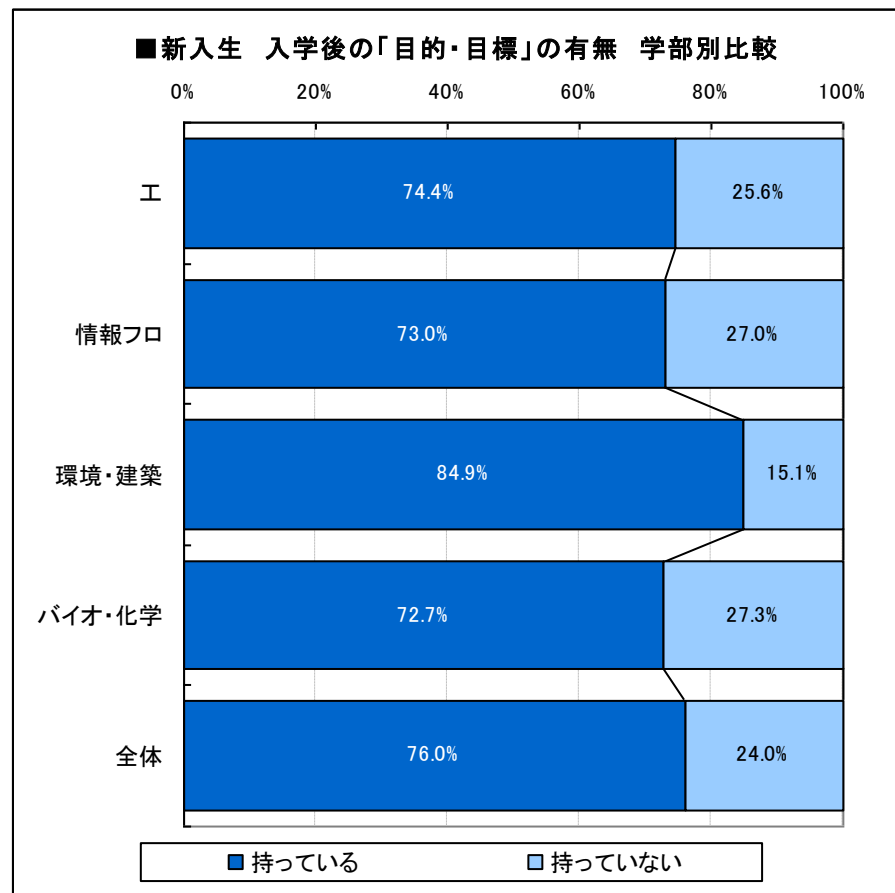
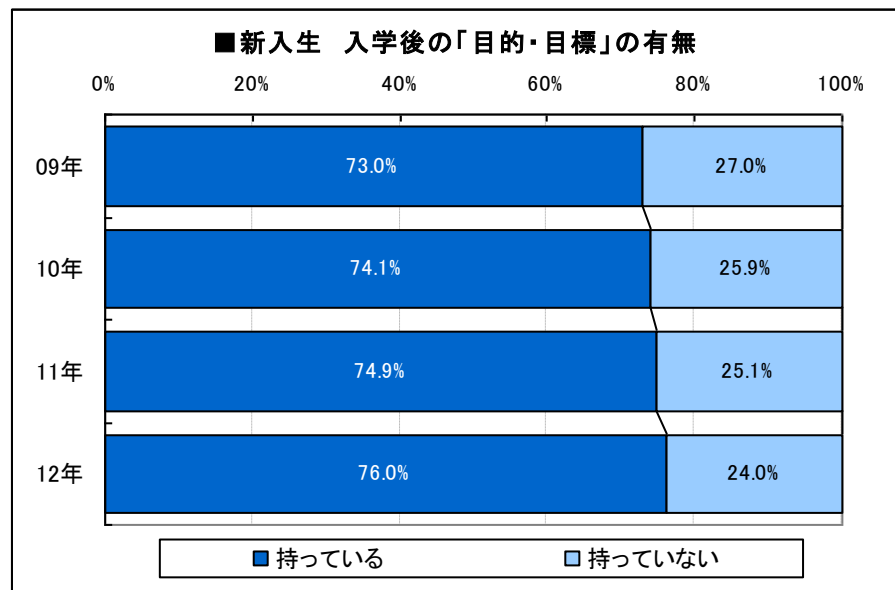
- 代表的な媒体の評価を聞いたところ、「大学のパンフレット」では、「役立った」が62.9%、「まあ役立った」が31.9%であり、合わせると94.8%が役立ったと評価していた。
- 次いで「KITホームページ」でも84.8%が役に立ったと評価しており、「パンフレット」にはかなわないものの、非常に役立っていることが分かった。
- 「オープンキャンパス」と「キャンパス見学」では「参加、活用せず」が各々、57.6%と61.5%と多く、一般的に使われているとは言えない状況であった。ただし、利用者の評価は非常に高く、「オープンキャンパス」で「あまり役立たなかった」と「役立たなかった」の合計は1.5%、「キャンパス見学」では1.6%とわずかであった。
- この質問はこれまでも聞いているが、今回から「参加、活用せず」を加えたため、年度別の変化は見えない。



<11-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

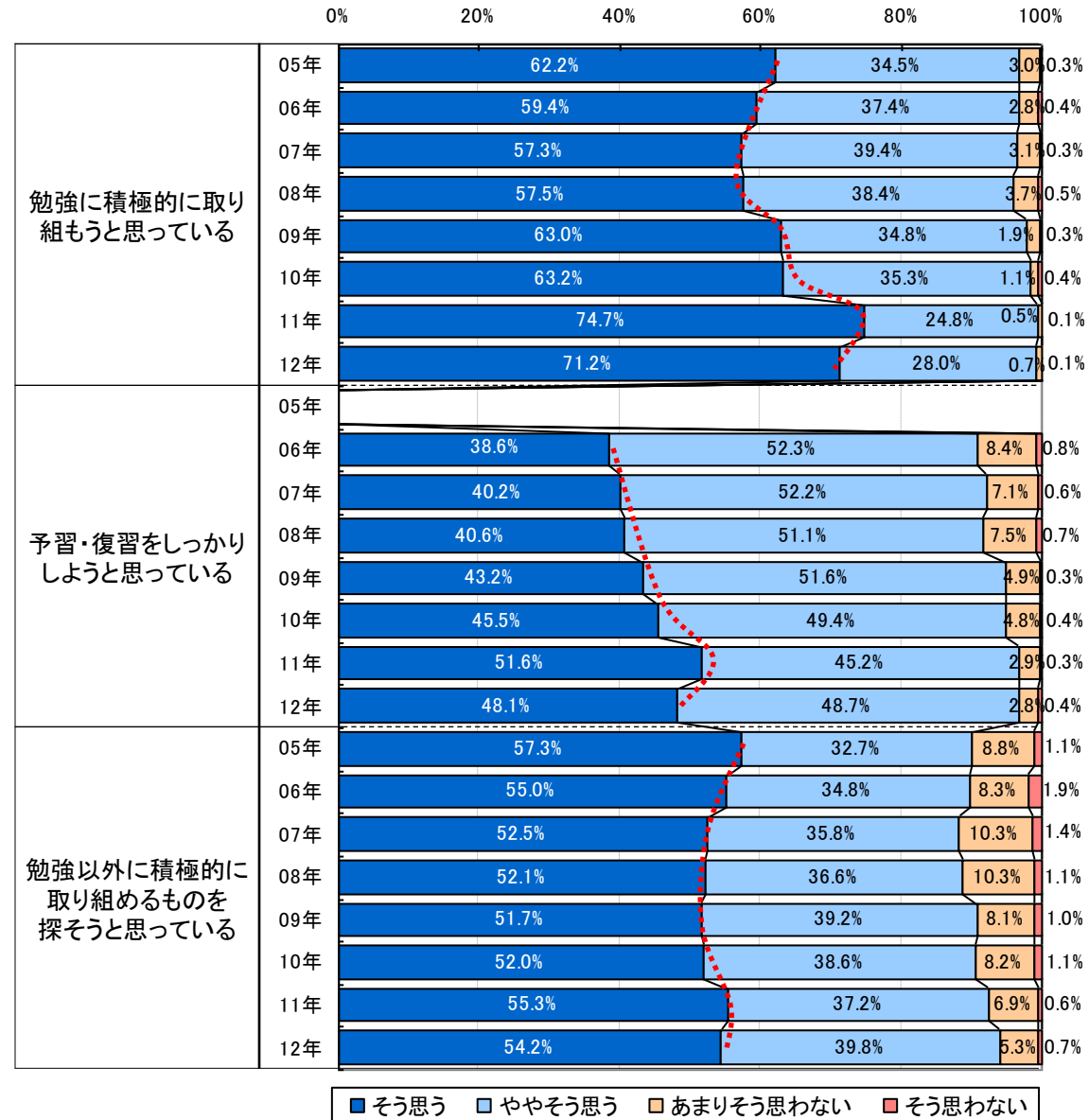
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という問いに関しては、76.0%が「持っている」と答えており、2009年よりわずかずつではあるが増加が続いていた。
- 「目的・目標」の有無を学部別に比較すると、「環境・建築学部」では「持っている」の割合が84.9%と、他の学部より10ポイントほど高かった。その他の学部同士の差は非常に少なかったが、「工学部」「情報フロンティア学部」「バイオ・化学部」の順となっていた。



■KITへの期待、心構え

- 「KITへの期待、心構え」に関して、「勉強に積極的に取り組もうと思っている」という問いに関しては、71.2%が「そう思う」、28.0%が「ややそう思う」と答えており、合わせると99.2%が肯定的な意見であった。これまでと比較すると「そう思う」は前回よりわずかに減少したが、肯定的な意見の多さは変わっていないかった。
- 「予習・復習をしっかりとやっている」に関する肯定的な意見が96.8%と多く、以前との比較でも「そう思う」はわずかに減少したものの、積極性の高さは変わっていないかった。
- 「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」も肯定的な意見が94.0%と多く、以前との比較では2008年あたりからわずかずつではあるが積極性が増す傾向が続いていることが確認できた。
- これらの3つの指標を見ると、新入生は色々な面で非常に積極的に取り組もうという気持ちを持って入学してきていることが分かる。

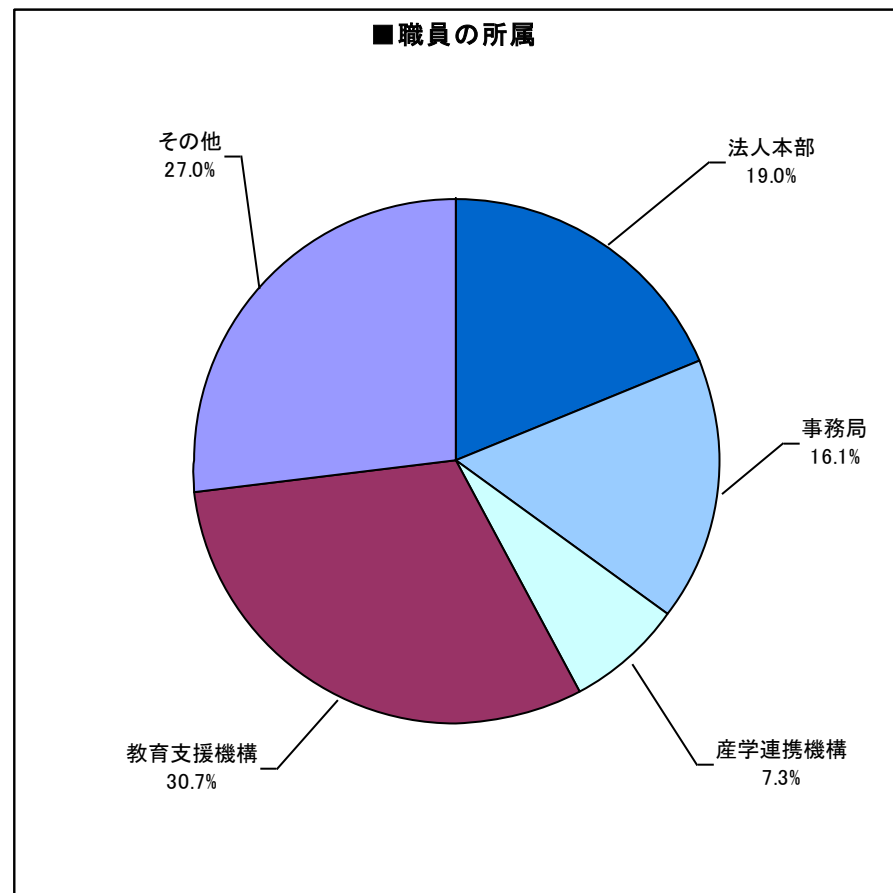
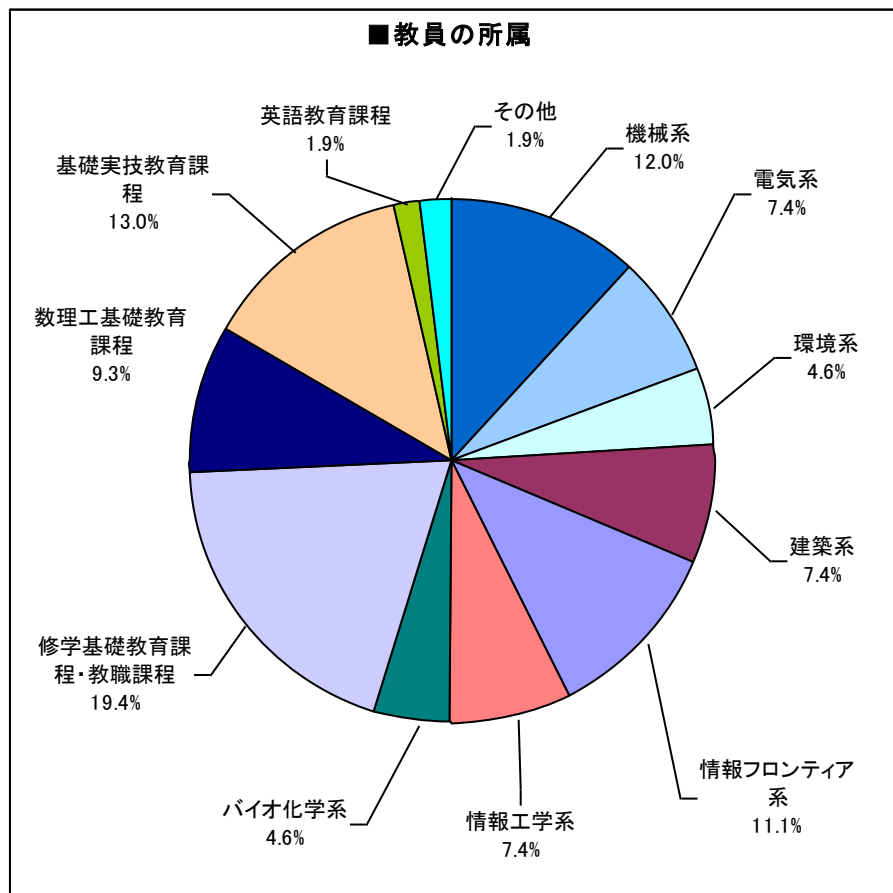
■新入生 KITへの期待、心構え



<12-1>教職員の基本属性

■教職員の基本属性

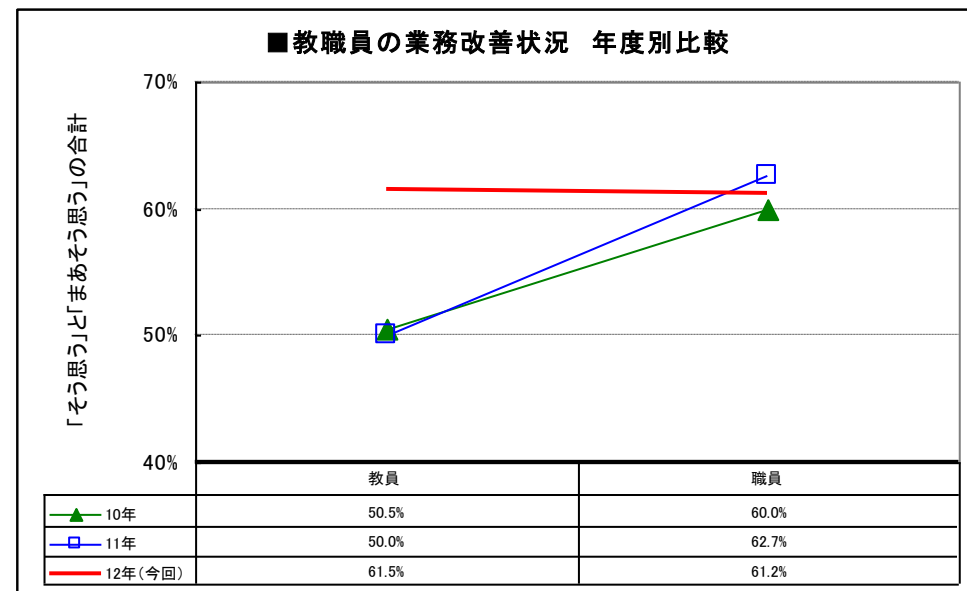
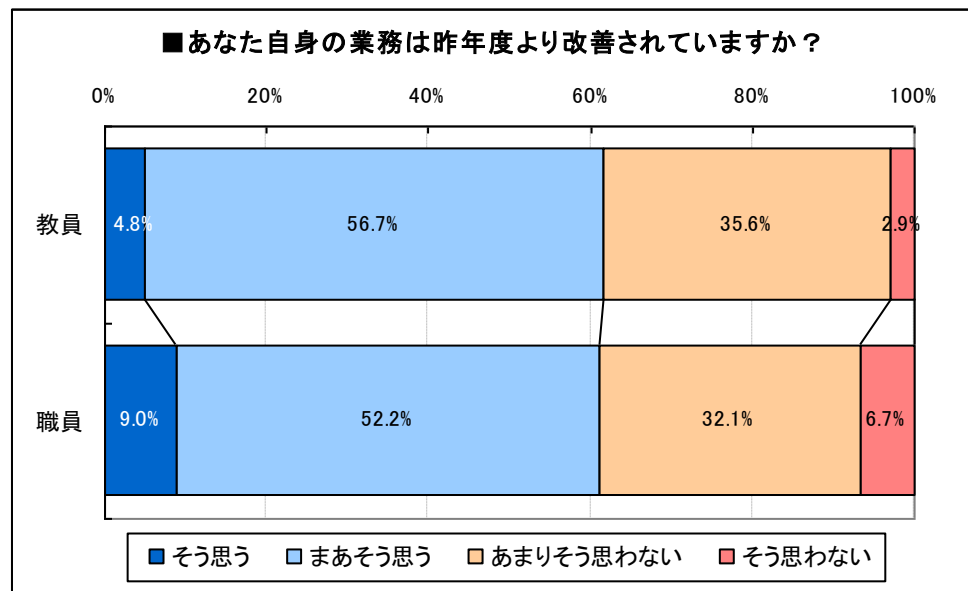
- 教員の所属では「修学基礎教育課程・教職課程」が19.4%と最も多く、次いで「基礎実技教育課程」「機械系」「情報フロンティア系」「数理工基礎教育課程」と続いていた。
- 職員の所属では「教育支援機構」が30.7%と最も多く、「その他」が27.0%、「法人本部」が19.0%、「事務局」が16.1%と続いていた。



<12-2>業務の状況に関して

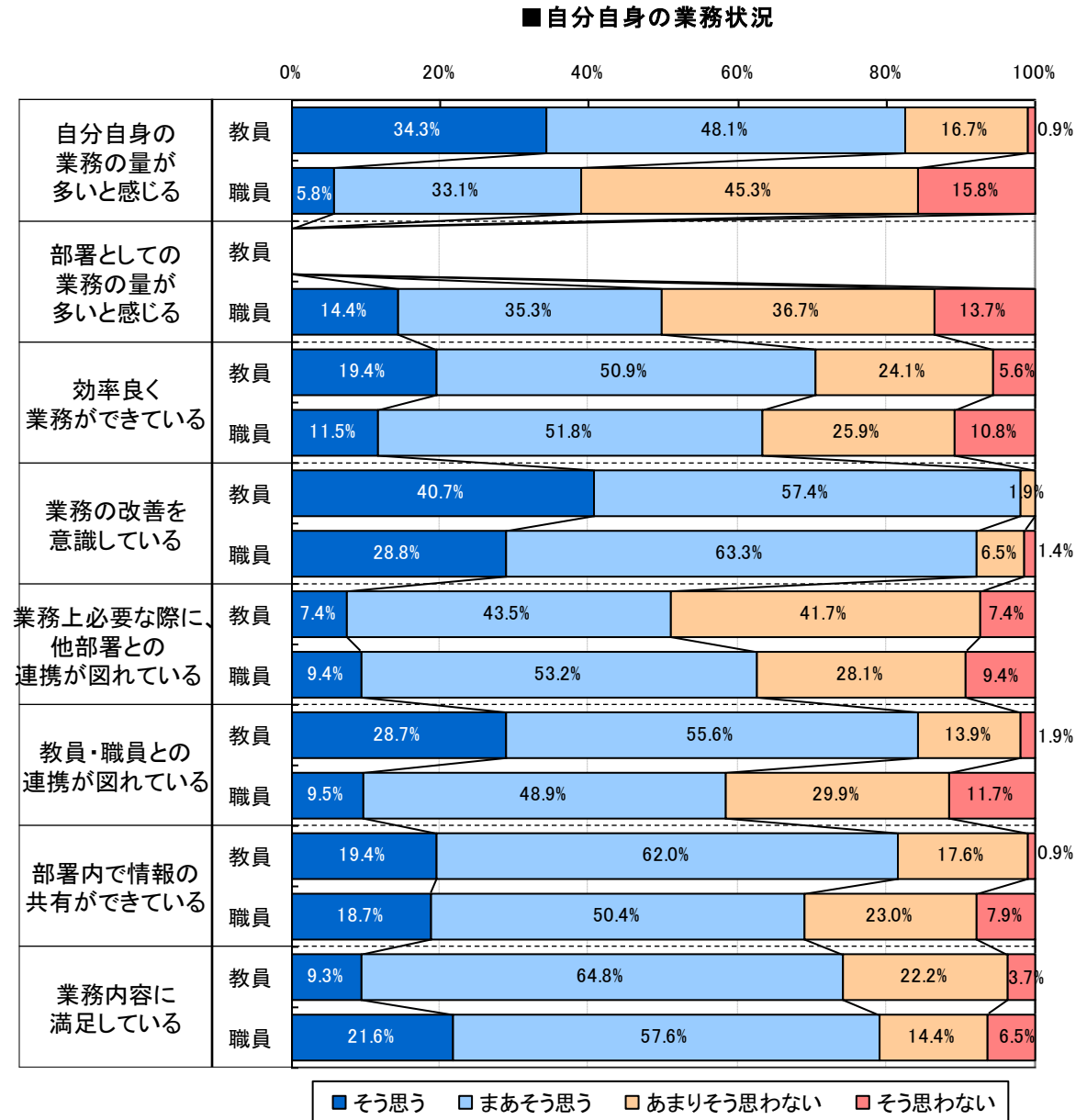
■自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」という質問に対し、「教員」では4.8%が「そう思う」と答えており、「まあそう思う」の56.7%と合わせると、61.5%が肯定的な意見であった。
- 「職員」では「そう思う」が9.0%、「まあそう思う」が52.2%で、合わせると61.2%であり、「教員」とほぼ同じ割合であった。
- 年度別の比較を見ると、「教員」は以前と比べて肯定的な意見が一気に増加していたが、「職員」は2011年よりわずかに低下しており、両者の差はほとんどなくなっていた。



■自分自身の業務状況

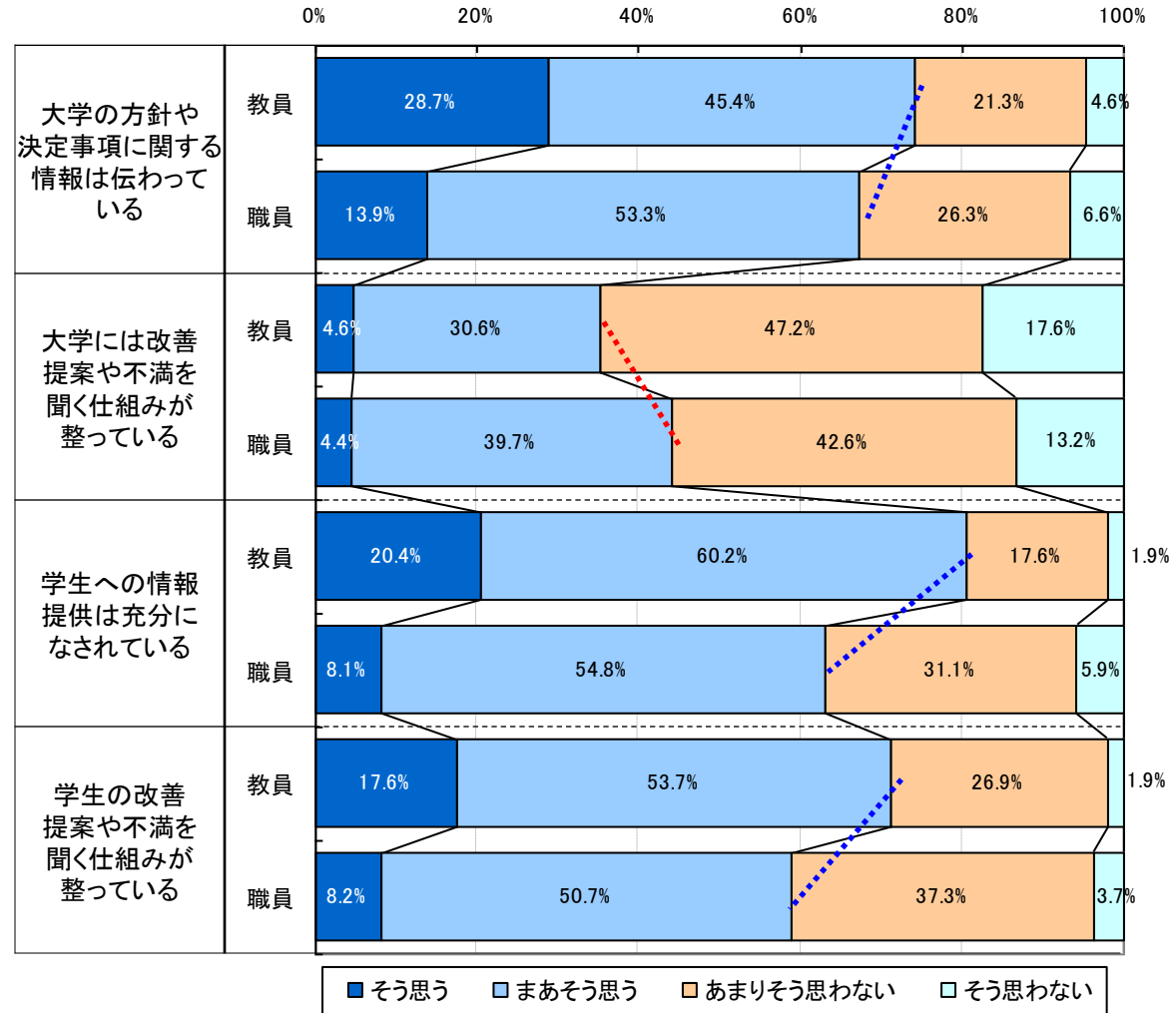
- 教職員に自分自身の業務の評価を8つの指標で聞いた。
- まず、「業務内容に満足している」の回答を見ると、「教員」では肯定的な意見が74.1%、「職員」で79.2%であり、「職員」の方がやや満足度が高かった。
- 「教員」と「職員」の回答を比較すると、「自分自身の業務の量が多いと感じる」「効率よく業務ができている」「業務の改善を意識している」「教員・職員との連携が図れている」「部署内で情報の共有ができている」という5項目では「教員」の方が肯定的な意見が多く、「業務上必要な際に、他部署との連携が図れている」「業務内容に満足している」の2項目は「職員」の方が肯定的な意見が多かった。
- 「教員」の回答で目立っていたのは「自分自身の業務の量が多いと感じる」の高さであり、「職員」にはそれほど大きな特徴が見られなかった。



■大学全体の業務改善の進捗状況

- 大学が改善にどのように取り組んでいるか、教職員の感じ方を見ると、全体的に教員の方が肯定的な意見が多かった。
- 「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」「学生への情報提供は充分になされている」「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」の3項目は教員の方が肯定的な意見が多かった。
- 特に「学生への情報提供は充分になされている」では「教員」と「職員」の差が大きく、「職員」は不十分だと感じる意見が多かった。
- 一方、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」については「教員」「職員」ともに肯定的な意見が少なく、特に「教員」が不満を持っているようであった。

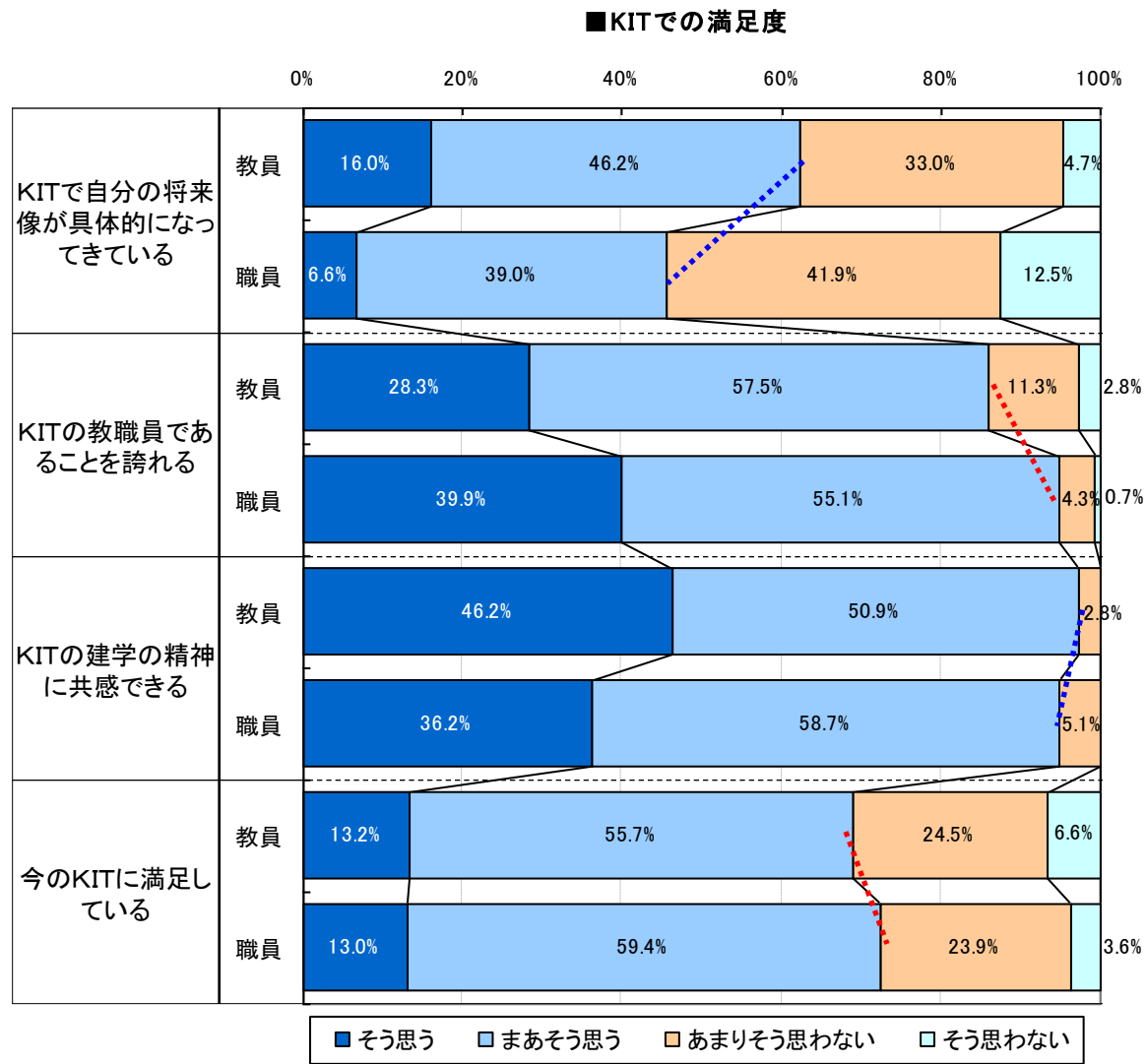
■大学の改善への取組状況



<12-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度に関しては、4つの項目を聞いた。
- 総合的な評価である「今のKITに満足している」では、「教員」で肯定的な意見が68.9%、「職員」で72.4%であり、わずかではあるが「職員」の満足度の方が高かった。
- 「KITの建学の精神に共感できる」では教職員の差がほとんど見られなかったが、「そう思う」という回答だけを見ると「教員」の方が10ポイント高かった。
- 「KITの教職員であることを誇れる」に関して教職員ともに肯定的な意見が多かったが、「そう思う」という回答だけを見ると「職員」の方が11.6ポイント高かった。
- 「KITで自分の将来像が具体的にってきている」は教職員の差が大きく、肯定的な意見を比べると「教員」で62.2%、「職員」で45.6%であり、「教員」の方が将来が見えているようであった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2012 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成24年11月21日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁